

授業科目名	学位取得必修科目	2単位	担当教員				
キリスト教平和学特論 (Special Studies in Christianity and Peace)			神 山 繁 實				
授業の到達目標及びテーマ 諸宗教間における戦争と平和についての比較研究を通じてより普遍的な平和思想の構築と特に日本国憲法の平和概念におけるキリスト教的モチーフの研究							
授業の概要 本講義は、下記の授業計画に沿ってなされることを前提に、授業の進め方について説明する。先ず、基本は、旧新約聖書と以下に掲げるテキスト、参考書並びにキリスト教関係の参考プリントに基づいて授業を進める。尚、授業に平行して学生は課題発表をし、全体で討論する。 目標は、他宗教、多様な文化と価値観の工作する現代世界が直面する危機の中で、「平和創造に参画する人材」の指標を明確に持つことを目指す。							
授 業 計 画							
第1回： オリエンテーション：シラバスの説明及び授業の進め方。平和学とは何か？	第8回： 戦争の原因1：経済的要因						
第2回： キリスト教の基礎	第9回： 戦争の原因2：政治的要因						
第3回： 旧約聖書における戦争と平和 シャローム	第10回： 戦争の原因：心理的要因						
第4回： 新約聖書における戦争と平和 パックス・ロマーナとエイレーネー	第11回： 戦争・平和理論						
第5回： 平和研究と平和の概念	第12回： 現代における戦争と平和						
第6回： 沖縄戦の体験	第13回： 平和の思想2						
第7回： 戦争形態の歴史的展開	第14回： 平和構造の構築						
	第15回： まとめ						
テキスト： 高島通敏 et al. 『平和研究講義』 岩波書店 2005 \2100+税 上田隆子 et. Al. 『平和のグランドセオリー序説』 風行社、2007 ¥2000+税 松田 央 『キリスト教の基礎』キリスト新聞社、2997・・・1800+税							
参 考 書： ヨハン・ガルトウング et. al. 『ガルトウング平和学入門』 法律文化社、2006、¥2500+税 日本平和学会編 『スピリチュアリティと平和』 早稲田大学出版部、2007、¥3200+税 キリスト教関係文献については、プリントを配布。							
学生に対する評価： 課題レポート、発表、ディスカッションへの貢献度等により、総合的に評価。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

授業科目名	学位取得必修科目	2 単位	担当教員																																																																
Reserach Project in Social Sciences I			近藤 功行																																																																
授業の到達目標及びテーマ In serving students who have entered the initial stages of their studies, this course aims to present systematic approaches to research and thesis design.																																																																			
<p>授業の概要</p> <p>リサーチ・プロジェクト I は、初年時のゼミでコアの一つである。選択したテーマに対してシステムチックに調査を進める方法を学ぶ。クラスのディスカッションでは、アイデアを生み出し整理することから、研究調査に適したテーマ選択、文献調査、仮説の立て方、調査上の注意点、研究の問題意識や計画書などについて学ぶ。積極的に議論に参加すること、議論をリードすることが求められる。また、研究に関する文献リストを作成する。 Research Project in the Social Sciences I. is a first-year core seminar that introduces research students to the systematic exploration of a chosen topic. Discussions include generating and organizing ideas, selecting a researchable topic, reviewing literature, formulating research questions, claims, proposals, predictions, theses and hypotheses, exploring ethical implications of human research, thinking critically, and sourcing research materials. Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester.</p>																																																																			
<p>授 業 計 画 ※詳細は後日提示します。</p> <p>第 1 回: 第 2 回: 第 3 回: 第 4 回: 第 5 回: 第 6 回: 第 7 回: 第 8 回: 第 9 回: 第 10 回: 第 11 回: 第 12 回: 第 13 回: 第 14 回: 第 15 回:</p>																																																																			
テキスト： Readings in this course are supplied by the teacher.																																																																			
参 考 書：																																																																			
学生に対する評価：Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester.																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価 試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度・ 授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>出 席</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度・ 授業への参加度								受講者の発表								演 習								出 席								その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
成績評価 試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度・ 授業への参加度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演 習																																																																			
出 席																																																																			
その他																																																																			

授業科目名	学位取得必修科目	2 単位	担当教員																																																																
Resesarch Project in Social Sciences II			A. David Ulvog																																																																
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>In serving students who have entered the initial stages of their studies, this course aims to present systematic approaches to research and thesis design.</p>																																																																			
<p>授業の概要</p> <p>リサーチ・プロジェクトIIは、初年時必修科目の一つである。演繹法や帰納法などの方法論について引き続き学ぶ。キーとなる概念や専門用語、理論的枠組、また観察方法やアンケート作成、インタビューの方法についても学ぶ。ディスカッションへの参加、論文のアウトライン作成、先行文献をまとめることが要求される。(Prerequisite: REP600) Research Project in the Social Sciences II. is a first-year core seminar that continues discussions of preliminary research methods, deductive and inductive approaches, definitions of key concepts and words, theoretical frameworks, questionnaires, observations, and interviews. Students receive credit for participating in, leading discussions, submitting a completed thesis outline, and presenting the results of the course literature review at the end of the semester.</p>																																																																			
<p>授 業 計 画 ※詳細は後日提示します。</p>																																																																			
<p>第 1 回:</p> <p>第 2 回:</p> <p>第 3 回:</p> <p>第 4 回:</p> <p>第 5 回:</p> <p>第 6 回:</p> <p>第 7 回:</p> <p>第 8 回:</p> <p>第 9 回:</p> <p>第 10 回:</p> <p>第 11 回:</p> <p>第 12 回:</p> <p>第 13 回:</p> <p>第 14 回:</p> <p>第 15 回:</p>																																																																			
<p>テキスト： Readings in this course are supplied by the teacher.</p>																																																																			
<p>参 考 書：</p>																																																																			
<p>学生に対する評価：Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester.</p>																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度・ 授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>出 席</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度・ 授業への参加度								受講者の発表								演 習								出 席								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度・ 授業への参加度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演 習																																																																			
出 席																																																																			
その他																																																																			

授業科目名	学位取得選必科目 (異文化交流領域)	2単位	担当教員																																																																
比較人文学特論 (Special Studies in Comparative Humanities)			近藤 功行																																																																
授業の到達目標及びテーマ <p>本学大学院は人文科学系の学問領域であるが、修士論文で想定されるテーマは多岐にわたると予測される。社会科学系また自然科学系の学問領域との融合も予想される。そのため、従来の専門枠にあてはまらない独創的・萌芽的な研究、とりわけ先端研究を担う内容を追求するところにある。あくまで、ベースは人文学の分野であるが、比較人文学としたところは、自由な横断研究にある。このため、各自が目標とする修士論文のテーマ、その柱や小枝の部分などを探りつつ、学問構築をはかることが本講義の到達目標であり、目標とするところである。</p>																																																																			
授業の概要 <p>比較人文学は、自由な発想で諸学問を横断するような研究を目指すところにある。 人類学、人類生態・動態学的なフィールド・ワーク手法、実地調査、現場での研究による一次資料の収集そして分析、そこに至る研究方法と研究の重要性についての教示、などである。 第6章構成の修士論文を想定した場合、この論文は有機的になおかつ、推理小説のように、ゴールに向かっての完結作品が要求される。つまり、論文構成また、展開される文章においては、書いているものすべてが意味をもつのである。そういった具体的な論述法はもとより、論文構成を通して、人文諸科学のどの学問がベースになり、論文が構成されてゆくのかを検討しつつ、個々人の修士論文がどういったかたちで形成されることが、最終章を導くことになるのかも含めて、指導を図る。幸い、私たちは琉球文化・日本文化、これらの文化に触れながら、各自のテーマ追求に入っていると考えられる。こういった出発点を重視しながら、また各自の研究の膨らみをとらえながら、研究の柱を築く内容に発展させてゆく。</p>																																																																			
授 業 計 画 <table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 「人文学」(Humanities and the Social Sciences) とはなにか ー人文科学の位置づけー </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第 8 回： 鹿児島県の民俗事象をまなぶ：石塔を覆う屋根 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第 2 回： 琉球文化・日本文化ー地域の生活的諸現象をとらえる視点ー </td> <td style="vertical-align: top;"> 第 9 回： 台湾の民俗事象をまなぶ：火葬場、冠婚葬祭、ハンセン病療養所 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第 3 回： 火の神考・檜山伏考ー基層文化を探る視点ー </td> <td style="vertical-align: top;"> 第 10 回： 日本の民俗事象をまなぶ：日本人の宗教観、世界観と近代人の人間観 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第 4 回： 沖縄の民俗事象をまなぶ：薬用動物、薬草、フーチバー </td> <td style="vertical-align: top;"> 第 11 回： 北欧の民俗事象をまなぶ：北欧の神話、フィンランドシャーマン治療の構造 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第 5 回： 沖縄の民俗事象をまなぶ：漢方、鍼灸 </td> <td style="vertical-align: top;"> 第 12 回： 人文科学の壁を越えた学問①：欧米の生命倫理観と日本との相違点をとおして </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第 6 回： 沖縄の民俗事象をまなぶ：民俗医療、ヤブー </td> <td style="vertical-align: top;"> 第 13 回： 人文科学の壁を越えた学問②：アメリカにおける代理出産、生殖医療を中心として </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第 7 回： 奄美の民俗事象をまなぶ：シニグ、十五夜踊り、洗骨 </td> <td style="vertical-align: top;"> 第 14 回： 人文科学の壁を越えた学問③：鎖国崩壊前の琉球と奄美、外国人宣教師の布教 </td> </tr> <tr> <td></td> <td style="vertical-align: top;"> 第 15 回： まとめ（課題提出に向けて） </td> </tr> </tbody> </table>				「人文学」(Humanities and the Social Sciences) とはなにか ー人文科学の位置づけー	第 8 回： 鹿児島県の民俗事象をまなぶ：石塔を覆う屋根	第 2 回： 琉球文化・日本文化ー地域の生活的諸現象をとらえる視点ー	第 9 回： 台湾の民俗事象をまなぶ：火葬場、冠婚葬祭、ハンセン病療養所	第 3 回： 火の神考・檜山伏考ー基層文化を探る視点ー	第 10 回： 日本の民俗事象をまなぶ：日本人の宗教観、世界観と近代人の人間観	第 4 回： 沖縄の民俗事象をまなぶ：薬用動物、薬草、フーチバー	第 11 回： 北欧の民俗事象をまなぶ：北欧の神話、フィンランドシャーマン治療の構造	第 5 回： 沖縄の民俗事象をまなぶ：漢方、鍼灸	第 12 回： 人文科学の壁を越えた学問①：欧米の生命倫理観と日本との相違点をとおして	第 6 回： 沖縄の民俗事象をまなぶ：民俗医療、ヤブー	第 13 回： 人文科学の壁を越えた学問②：アメリカにおける代理出産、生殖医療を中心として	第 7 回： 奄美の民俗事象をまなぶ：シニグ、十五夜踊り、洗骨	第 14 回： 人文科学の壁を越えた学問③：鎖国崩壊前の琉球と奄美、外国人宣教師の布教		第 15 回： まとめ（課題提出に向けて）																																																
「人文学」(Humanities and the Social Sciences) とはなにか ー人文科学の位置づけー	第 8 回： 鹿児島県の民俗事象をまなぶ：石塔を覆う屋根																																																																		
第 2 回： 琉球文化・日本文化ー地域の生活的諸現象をとらえる視点ー	第 9 回： 台湾の民俗事象をまなぶ：火葬場、冠婚葬祭、ハンセン病療養所																																																																		
第 3 回： 火の神考・檜山伏考ー基層文化を探る視点ー	第 10 回： 日本の民俗事象をまなぶ：日本人の宗教観、世界観と近代人の人間観																																																																		
第 4 回： 沖縄の民俗事象をまなぶ：薬用動物、薬草、フーチバー	第 11 回： 北欧の民俗事象をまなぶ：北欧の神話、フィンランドシャーマン治療の構造																																																																		
第 5 回： 沖縄の民俗事象をまなぶ：漢方、鍼灸	第 12 回： 人文科学の壁を越えた学問①：欧米の生命倫理観と日本との相違点をとおして																																																																		
第 6 回： 沖縄の民俗事象をまなぶ：民俗医療、ヤブー	第 13 回： 人文科学の壁を越えた学問②：アメリカにおける代理出産、生殖医療を中心として																																																																		
第 7 回： 奄美の民俗事象をまなぶ：シニグ、十五夜踊り、洗骨	第 14 回： 人文科学の壁を越えた学問③：鎖国崩壊前の琉球と奄美、外国人宣教師の布教																																																																		
	第 15 回： まとめ（課題提出に向けて）																																																																		
テキスト ：講義に必要な内容は、毎時間、担当者がプリントを作成して講義に臨みます。事前に購入する書籍はありません。																																																																			
参 考 書 ：近藤功行・小松和彦（編著）『死の技法』 ミネルヴァ書房、2008																																																																			
学生に対する評価 ： 毎回の講義では、担当者が独自のB4版1枚の感想用紙を作成して配布します。 左側には質問事項を書き、右側には講義の意見や感想を書く欄を設けます。それを毎回提出してください。なお、試験は行わず、試験にかかわる課題を提出してもらいます。修士論文構成においては、第6章構成で全体が描けることを目標に、章立てを含めて、自分の論文の全体像が描くことができるように導きながら、こういった課題をみながら、総合的な評価を下してゆきます。																																																																			
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価 試験 (中間・期末試験)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○		○			90	小テスト・ 授業内レポート	○						評価に加えず	授業態度							評価に加えず	受講者の発表							評価に加えず	演 習							評価に加えず	授業への参加度			○				10	その他							なし
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○		○			90																																																												
小テスト・ 授業内レポート	○						評価に加えず																																																												
授業態度							評価に加えず																																																												
受講者の発表							評価に加えず																																																												
演 習							評価に加えず																																																												
授業への参加度			○				10																																																												
その他							なし																																																												

授業科目名	学位取得選必修科目 (異文化交流領域) 専修免(必修科目)	2単位	担当教員				
異文化コミュニケーション学特論Ⅰ (Special Studies in Inter-Cultural Communication I)			伊 佐 雅 子				
授業の到達目標及びテーマ 異文化背景をもつ人とのコミュニケーションに影響を与える心理的・社会的要因について学び、異文化コミュニケーション研究への基礎知識を得ることができる。							
授業の概要 異文化コミュニケーション研究に関する基礎的かつ入門的な知見を得ることを目的とする。具体的には、文化的背景の異なる人々が交流し関係を構築していくコミュニケーションの過程において、文化に起因する要因がいかなる影響を与えているのかを個人、対人、集団、国家、国際レベルで研究する。							
授 業 計 画							
第1回： コミュニケーションの基礎概念	第9回： 異文化交渉と通訳						
第2回： 文化とコミュニケーション	第10回： カルチャーショックと適応過程						
第3回： メッセージとしての言語と非言語	第11回： 文化摩擦とコミュニケーション						
第4回： 自己と自己概念、知覚・認知過程と文化	第12回： 教育と異文化コミュニケーション						
第5回： イメージ、ステレオタイプ、偏見	第13回： マスメディア、グローバリズム、アイデンティティ						
第6回： 対人関係と異文化コミュニケーション	第14回： 言語選択と英語						
第7回： 組織における異文化コミュニケーション	第15回： 沖縄における異文化コミュニケーション						
第8回： 異文化のレトリック							
テキスト ：古田暁監修『異文化コミュニケーション』改定版（有斐閣） L.A. サモーパー・他『異文化コミュニケーション入門—国際人養成のために—』（聖文社） 久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣）							
参 考 書 ：伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社） 石井敏・他『異文化コミュニケーション・ハンドブック』（有斐閣） 西田ひろ子『異文化間コミュニケーション入門』 Gudykunst& Kim [Communicating with Strangers](McGraw-Hill)							
学生に対する評価 ： クラス参加度（出席、発言、口頭発表など 30%）、クイズ（20%）、プロジェクト・ペーパー（50%）							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

授業科目名		学位取得選必修科目 (異文化交流領域) 専修免(選択科目)	2単位	担当教員				
異文化コミュニケーション学特論Ⅱ (Special Studies in Inter-Cultural Communication II)				伊 佐 雅 子				
授業の到達目標及びテーマ								
異文化コミュニケーション学特論Ⅰに引き続き、異文化コミュニケーション研究への理解を深める。理論面は受講生の発表と討議形式をとり、異文化コミュニケーションに関する既存の代表的理論の考察と批評ができることを目標とする。次に、異文化摩擦の事例研究を通してそれらの要因を考察することで、自国の文化と相手の異文化に対する相互理解を深める。また、多文化共生社会に不可欠なコミュニケーション能力を育成するための英語教育のあり方についても考察する。								
授業の概要								
異文化コミュニケーションの理論と実践を学ぶ。テーマとして、メッセージ関係、対人関係、集団・組織、異文化接触中心の理論、コミュニケーション能力の理論などを扱う。実践面では、地域、民族、言語・非言語、ジェンダー、世代など広い意味での文化的背景の異なる人々が接触し、交流・交渉する際に起きるギャップ、すれ違いなどの結果起きた異文化摩擦の事例研究、ビデオ鑑賞、討論などの方法で進めてゆく。具体的には、海外留学、海外赴任、帰国後再適応、在日外国人、国内・海外での摩擦、国際交流・協力、メディア・スポーツ交流、英語教育などを取り上げる。								
授 業 計 画								
第1回： 理論	メッセージ中心の理論（線形系コミュニケーションモデル、意味協応調整理論）	第8回： 実践面	海外留学、海外赴任					
第2回：	対人関係中心の理論（帰属理論、間人主義理論、自己開示）	第9回：	帰国・帰郷					
第3回：	集団・組織中心の理論（集団主義・個人主義、アイデンティティ理論、シンボリック相互作用理論など）	第10回：	日本在住外国人					
第4回：	異文化接触中心の理論（不確実性減少理論、異文化適応理論）	第11回：	国内・海外での異文化摩擦					
第5回：	コミュニケーション能力（コンピテンス、コミュニケーション調整理論、非言語コミュニケーション、異文化リテラシーなど）	第12回：	国際文化交流・協力					
第6回：	偏見、イメージ、ステレオタイプ	第13回：	メディア・スポーツ交流					
第7回： 理論	空間・時間・言語と「場」の理論（ゲブサーの意識構造理論）	第14回：	国際理解教育（開発教育）					
		第15回：	グローバル化と英語教育					
テキスト：石井敏・他『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣 西田ひろ子編『異文化間コミュニケーション入門』創元社 久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣）								
参 考 書：古田暁・他『異文化コミュニケーション・キーワード』（有斐閣） 池田理知子・E.M.クレーマー著『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣 稲賀繁美編『異文化理解の倫理にむけて』（名古屋大学出版） Kim & Gudykunst [Theories in Intercultural Communication](Sage) William B. Gudykunst [Theorizing about Intercultural Communication] (Sage)								
学生に対する評価：クラス参加度（出席、発言、口頭発表など30%）、小テスト（20%）、プロジェクト・ペーパー（50%）								
到達目標等 成績評価	試験 (中間・期末試験)	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
	小テスト・ 授業内レポート							
	授業態度							
	受講者の発表							
	演 習							
	授業への参加度							
	その他							

授業科目名 英語教授法特論 (Special Studies in English Language Teaching)	学位取得選必科目 (英語教育領域) 専修免(必修科目)	2単位	担当教員 山 里 恵 子					
授業の到達目標及びテーマ 中学校・高等学校・大学でコミュニケーション能力をどのレベルに設定すれば社会の要望に応えられるかを探求する。語学技術指導においては、同時通訳の諸技術も大いに活用する。								
授業の概要 本講義では、学習者と学習者を取り巻く環境に焦点をあて、コミュニケーション重視の英語教育を学ぶ。また、語学教育上有用だと言われる同時通訳の諸技術を活用する方法を研究する。それと同時に、グローバル社会において、中学校・高等学校・大学でコミュニケーション能力をどのレベルに設定すれば社会の要望に応えられるかを探求する。その際、教科書の活用法および改善法も検討する。								
授 業 計 画								
第 1 回： 学習者を取り巻く環境 第 2 回： 異文化受容について (グローバル社会) 第 3 回： 異文化受容について (グローバル社会) 第 4 回： コミュニケーションの構成 第 5 回： 中学校学習指導要領 (日本語・英語)、テキスト、授業の検討 第 6 回： 高等学校学習指導要領 (日本語・英語)、テスト、業の検討 第 7 回： 同時通訳技術と中学校英語教育 (音声と文字) 第 8 回： 同時通訳技術と高等学校英語教育 (音声と文字)	第 9 回： 同時通訳技術と大学英語教育 (音声と文字) 第 10 回： コミュニケーション重視の教案作成 (中学校用) 第 11 回： コミュニケーション重視の教案作成 (高等学校用) 第 12 回： English Language Teaching in East Asia Today, Japan 第 13 回： English Language Teaching in East Asia Today, Korea 第 14 回： English Language Teaching in East Asia Today, China 第 15 回： English Language Teaching in East Asia Today, Taiwan 第 16 回： English Language Teaching in East Asia Today, Singapore							
テキスト： 1.橋本満弘・石井敏編「英語コミュニケーションの理論と実際」桐原書店 2.萬戸克憲著「国際化と英語科教育」大修館 3.山内進編著、「言語教育入門」、大修館 4.文部科学省、「中学校学習指導要領」 5.文部科学省、「高等学校学習指導要領」 6.中学校、高等学校用英語教科書 1 シリーズ 7.Ho Wah Kam & Ruth Y L, Wong, <i>English Language Teaching in East Asia Today</i> , Eastern, University Press								
参 考 書： 佐藤郡衛・林英和著、「国際理解の授業づくり」、教育出版 浦島 久・クライド ダブンプート著、「1分間英語で自分のことを話してみる」、中経出版 荒木博之著、「日本語が見えると英語も見える」、中公新書 柴田バネッサ著、「実践ゼミ ウイスパリング同時通訳」、南雲堂								
学生に対する評価： トピックに沿った英語と日本語のプレゼンテーションをし、Q-Aまで対応することを基本とする。学習者の環境、コミュニケーションの意味、同時通訳の技術等をいかに捉え 1 時間の授業に盛り込む事が出来るかを評価の対象とする。								
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート	○	○				}		
授業態度	○	○	○	○	○			総合 100%
受講者の発表	○	○	○	○	○			
演 習	○	○	○	○	○			
授業への参加度							1/3 欠承認	
その他								

授業科目名	学位取得選必科 (英語教育領域) 専修免(必修科目)	2単位	担当教員					
英語教育学特論 I (Special Studies in English Education I)			Daniel Broudy					
授業の到達目標及びテーマ The principal aim of this course is to develop in students a critical awareness of knowledge as a social and institutional construction and what this means to the development of the English language learner within communities and societies across the world.								
授業の概要 This course introduces students to theories of knowledge, practices of knowledge generation, and their connections to free and democratic societies. Students are asked to think and write critically about the topics and to contemplate their impact on English language teaching in Japan.								
授 業 計 画 第 1 回 : Introduction to theories of knowledge 第 2 回 : Michael Polanyi - epistemology 第 3 回 : Alasdair MacIntyre - epistemology 第 4 回 : Reproduction in Education 第 5 回 : Pierre Bourdieu 第 6 回 : dialogic inquiry 第 7 回 : Lev Vygotsky 第 8 回 : Representation in Media 第 9 回 : Stuart Hall 第 10 回 : Student-led discussion of selected research project 1 第 11 回 : Student-led discussion of selected research project 2 第 12 回 : Student-led discussion of selected research project 3 第 13 回 : Student-led discussion of selected research project 4 第 14 回 : Student-led discussion of selected research project 5 第 15 回 : Summing up								
テキスト : Dialogic Inquiry: Building on the Legacy of Vygotsky (Gordon Wells)								
参 考 書 :								
学生に対する評価 : Students will be evaluated on the quality of their responses to the discussion questions at the end of each class, their ability to research the subject they are assigned, and quality of their presentation								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度								
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度								
その他								

授業科目名	学位取得選必修科目 (英語教育領域) 専修免(必修科目)	2単位	担当教員				
英語教育学特論Ⅱ (Special Studies in English Education II)			Daniel Broudy				
授業の到達目標及びテーマ This course is follow-on of discussions taken up in 英語教育学特論 I where the goal is to further develop a critical awareness of knowledge as a social and institutional construction and what this means to the development of the English language learner within communities and societies across the world.							
授業の概要 This course introduces students to theories of knowledge, practices of knowledge generation, and their connections to free and democratic societies. Students are asked to think and write critically about the topics and to contemplate their impact on English language teaching in Japan.							
授 業 計 画 第 1 回 : Hegemony theory in education 第 2 回 : Antonio Gramsci 第 3 回 : Cultural Imperialism in the classroom 第 4 回 : Herbert Schiller 第 5 回 : Gender and Language in the classroom 第 6 回 : Deborah Cameron 第 7 回 : George Lakoff 第 8 回 : Language: The Loaded Weapon 第 9 回 : Dwight Bollinger 第 10 回 : Student-led discussion of two high stakes tests 第 11 回 : Student-led discussion of case studies in test ethics 第 12 回 : Student-led discussion of language testing research reports 第 13 回 : Student-led discussion of a large scale testing project 第 14 回 : Student-led discussion of the impact of technology on language testing 第 15 回 : Summing up							
テキスト : There is no textbook but teacher-prepared readings will be used.							
参 考 書 :							
学生に対する評価 : Students will be evaluated on the quality of their responses to the discussion questions at the end of each class, their ability to research the subject they are assigned, and quality of their presentations.							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

授業科目名	学位取得選択科目	2単位	担当教員																
国際関係特論 (Special Studies in International Relations)			新垣 誠																
授業の到達目標及びテーマ 講義のテーマは「グローバリゼーション」。産業革命以来、私たちの生活や他者との関わり方、そして国際社会のあり方を大きく変えてきたこの現象を学際的視座から多角的に捉え、その力学を歴史、政治、経済、文化の側面から分析できる力をつける。 知識理解：グローバル化を説明できる。 関心意欲：国際情勢に興味を持てる。 思考判断：国際社会の仕組みを指摘できる。 態度：理論的思考と分析力を持つ。																			
授業の概要 本講義では、激しく流動化する現在の国際関係を、「グローバルゼーション」というキーワードを基に読み解く。近代国家の枠組みを超えて生じる地球環境問題や、自由市場経済と多国籍企業のあり方、難民や国際テロリズムの問題など、21世紀における新たな世界情勢を捉える視点について考える。また、理論的枠組みに加え、アジアや沖縄など特定の地域に焦点を絞り、それぞれの地域が互いにどう関係し合っているのかを、具体的に学ぶ。																			
授 業 計 画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">第1回： グローバリゼーションと国際社会：概観</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">第9回： NGO・NPO： 新たな社会変革への始動</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第2回： 貧困、紛争、環境： 国際社会の抱える課題と取組み、その歴史と現状</td> <td style="padding: 5px;">第10回： 環境問題と国際社会</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第3回： 開発教育と「地球市民」という概念</td> <td style="padding: 5px;">第11回： 世界の貧困と「ミレニアム開発目標」</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第4回： 人口移動とアイデンティティの多様化</td> <td style="padding: 5px;">第12回： 軍事主義と国際社会</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第5回： 人権問題、ジェンダー・ジャスティス</td> <td style="padding: 5px;">第13回： グローバリゼーションと沖縄</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第6回： 新植民地主義とエスニック・民族紛争</td> <td style="padding: 5px;">第14回： プレゼンテーションとディスカッション</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第7回： 宗教紛争と国際テロリズム</td> <td style="padding: 5px;">第15回： プレゼンテーションとディスカッション</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第8回： トランスナショナルな社会形態と新たなナショナリズムの台頭</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				第1回： グローバリゼーションと国際社会：概観	第9回： NGO・NPO： 新たな社会変革への始動	第2回： 貧困、紛争、環境： 国際社会の抱える課題と取組み、その歴史と現状	第10回： 環境問題と国際社会	第3回： 開発教育と「地球市民」という概念	第11回： 世界の貧困と「ミレニアム開発目標」	第4回： 人口移動とアイデンティティの多様化	第12回： 軍事主義と国際社会	第5回： 人権問題、ジェンダー・ジャスティス	第13回： グローバリゼーションと沖縄	第6回： 新植民地主義とエスニック・民族紛争	第14回： プレゼンテーションとディスカッション	第7回： 宗教紛争と国際テロリズム	第15回： プレゼンテーションとディスカッション	第8回： トランスナショナルな社会形態と新たなナショナリズムの台頭	
第1回： グローバリゼーションと国際社会：概観	第9回： NGO・NPO： 新たな社会変革への始動																		
第2回： 貧困、紛争、環境： 国際社会の抱える課題と取組み、その歴史と現状	第10回： 環境問題と国際社会																		
第3回： 開発教育と「地球市民」という概念	第11回： 世界の貧困と「ミレニアム開発目標」																		
第4回： 人口移動とアイデンティティの多様化	第12回： 軍事主義と国際社会																		
第5回： 人権問題、ジェンダー・ジャスティス	第13回： グローバリゼーションと沖縄																		
第6回： 新植民地主義とエスニック・民族紛争	第14回： プレゼンテーションとディスカッション																		
第7回： 宗教紛争と国際テロリズム	第15回： プレゼンテーションとディスカッション																		
第8回： トランスナショナルな社会形態と新たなナショナリズムの台頭																			
テキスト： 講義に必要な文献、資料および教材は担当者が準備します。																			
参 考 書：																			
学生に対する評価： 出席、授業やディスカッションへの参加、課題やリサーチペーパーをもとに総合的に評価します。(講義内容に関連するテーマをもとに、リサーチペーパーの提出を義務づけず)																			
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)												
試験 (中間・期末試験)																			
小テスト・ 授業内レポート	○	○					30												
授業態度			○	○			20												
受講者の発表					○		30												
演 習																			
授業への参加度				○			20												
その他																			

授業科目名	学位取得選択科目	2単位	担当教員																																																																
国際ボランティア学特論 (Special Studies in International Volunteering)																																																																			
授業の到達目標及びテーマ 「国際ボランティア論」は、実学であり活学です。この講義では、国際ボランティア活動を取り巻くグローバルな現象、そして実践面に関する基本的な理解をめざします。国際ボランティアのイメージと実像の違いは？なぜ今、国際ボランティアなのか？このようなことを、この講義で一緒に考えてみましょう。																																																																			
授業の概要 地球規模で取り組まなければならない課題に、解決の途は開かれるのでしょうか？開発途上国とよばれる国々では、現在でも多くの人々が、紛争、飢餓、環境破壊、人権侵害といった危機に瀕しています。戦後、先進国政府や国際連合の機関が中心となり、このような問題に取り組んできましたが、公的次元での援助の弊害や矛盾も指摘されています。このような背景から、近年、国際ボランティアに注目が集まっています。この講義では、グローバル化や開発援助の文脈に国際ボランティアを位置づけ、国際ボランティア活動やプログラムの内容・課題について考えます。																																																																			
授 業 計 画																																																																			
<table border="1"> <tr><td>第1回：</td><td>講義の概要と計画／国際ボランティア論への招待</td></tr> <tr><td>第2回：</td><td>「国際ボランティア」の定義／グローバルゼッション</td></tr> <tr><td>第3回：</td><td>開発援助</td></tr> <tr><td>第4回：</td><td>NGO</td></tr> <tr><td>第5回：</td><td>貧困：世界の半分が飢えるのはなぜか？</td></tr> <tr><td>第6回：</td><td>女性・ジェンダー</td></tr> <tr><td>第7回：</td><td>人間の安全保障と平和構築</td></tr> <tr><td>第8回：</td><td>地球環境</td></tr> </table>	第1回：	講義の概要と計画／国際ボランティア論への招待	第2回：	「国際ボランティア」の定義／グローバルゼッション	第3回：	開発援助	第4回：	NGO	第5回：	貧困：世界の半分が飢えるのはなぜか？	第6回：	女性・ジェンダー	第7回：	人間の安全保障と平和構築	第8回：	地球環境	<table border="1"> <tr><td>第9回：</td><td>国際連合ボランティア</td></tr> <tr><td>第10回：</td><td>JICA 海外青年協力隊</td></tr> <tr><td>第11回：</td><td>NGO 活動への参加</td></tr> <tr><td>第12回：</td><td>異文化コミュニケーションの諸相と安全面</td></tr> <tr><td>第13回：</td><td>補論：国際公務員（国連機関職員）</td></tr> <tr><td>第14回：</td><td>ケーススタディー：難民問題</td></tr> <tr><td>第15回：</td><td>国際ボランティアの未来／補足とまとめ</td></tr> </table>	第9回：	国際連合ボランティア	第10回：	JICA 海外青年協力隊	第11回：	NGO 活動への参加	第12回：	異文化コミュニケーションの諸相と安全面	第13回：	補論：国際公務員（国連機関職員）	第14回：	ケーススタディー：難民問題	第15回：	国際ボランティアの未来／補足とまとめ																																				
第1回：	講義の概要と計画／国際ボランティア論への招待																																																																		
第2回：	「国際ボランティア」の定義／グローバルゼッション																																																																		
第3回：	開発援助																																																																		
第4回：	NGO																																																																		
第5回：	貧困：世界の半分が飢えるのはなぜか？																																																																		
第6回：	女性・ジェンダー																																																																		
第7回：	人間の安全保障と平和構築																																																																		
第8回：	地球環境																																																																		
第9回：	国際連合ボランティア																																																																		
第10回：	JICA 海外青年協力隊																																																																		
第11回：	NGO 活動への参加																																																																		
第12回：	異文化コミュニケーションの諸相と安全面																																																																		
第13回：	補論：国際公務員（国連機関職員）																																																																		
第14回：	ケーススタディー：難民問題																																																																		
第15回：	国際ボランティアの未来／補足とまとめ																																																																		
テキスト： 試用しません。授業時に、レジュメと資料を配布します。																																																																			
参 考 書： 内容に応じて授業毎に紹介します。																																																																			
学生に対する評価： レポート（70%）、出席（30%）																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演 習																																																																			
授業への参加度																																																																			
その他																																																																			

授業科目名			担当教員				
国際開発特論 (Special Studies in International Development)	学位取得選択科目	2単位					
授業の到達目標及びテーマ 国際開発協力の全体像と潮流をつかみ、今後の国際開発援助あり方を考える時に必要な眼を養うことが、この講義の目標です。この講義は、理論と実践を架橋しながらすすめます。受講後、皆さんが、現地の人々やフィールドにいる専門家たちに思いを馳せるようになることを願っています。							
授業の概要 21世紀にはいっても、紛争、飢餓、環境破壊、人権侵害といった途上国問題が解決される兆しはありません。戦後、国際開発協力の中心は先進国政府や国連機関でしたが、これからアクターは常に、国際政治と人道主義という二つの要素とその変動に左右されてきました。 本講義では、これらを踏まえ、近代化論、ベーシック・ヒューマン・ニーズ戦略、持続可能な発展論、グッド・ガバナンス論といった国際開発思想とその実践、問題点について考察します。次に、これからの国際開発協力のあり方について考えます。							
授 業 計 画							
第1回： 講義の概要と計画／国際開発とは何か？	第9回： 女性・ジェンダー						
第2回： 安全保障政策としての開発援助	第10回： 「開発暴力」と強制移民						
第3回： 近代化論の破綻と構造調整プログラム	第11回： 開発と地球環境						
第4回： 開発援助と人道援助の機能的連結	第12回： 日本のODA						
第5回： 持続可能な発展	第13回： 国際機構とNGO						
第6回： グッド・ガバナンスと人間の安全保障	第14回： 国際開発協力の未来						
第7回： 紛争と平和構築	第15回： 補足とまとめ						
第8回： 貧困							
テキスト： テキストは使用しません。授業時に、レジュメと資料を配布します。							
参 考 書： 内容に応じて授業毎に紹介します。							
学生に対する評価： (レポート (70%)、出席 (30%))							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

授業科目名	学位取得選択科目	2 単位	担当教員																																																																
Communication in Situations of Unequal Power			C. Douglas Lummis																																																																
<p>授業の到達目標及びテーマ — <i>What we've got here is a failure of communication.</i> (Paul Newman as 'Cool Hand Luke')</p> <p>We human beings are remarkable in our ability to communicate, but we are also remarkable in our ability to imagine we are communicating when we are not. Failures of communication can result from a variety of causes: differences of language, culture, ideology, worldview, experience and the like. In this seminar, I want to focus on a factor that is sometimes not noticed in communication studies: differences in power. Power differences can take many forms; here I propose to take up only a sample of some of the most obvious ones.</p>																																																																			
<p>授業の概要</p> <p>The seminar will be divided into two parts. In the Spring semester, we will be looking at a variety of <i>situations</i> in which unequal power distorts communication. As this sort of distortion is a common theme in fiction, we will look at some of the classic works that deal with that theme. In the Fall semester, we will focus more on some of the <i>theoretical works</i> that seek to explain how and why unequal power distorts communication. Of course, students may enrol in either of the two parts of the seminar without enrolling in the other.</p>																																																																			
<p>授 業 計 画 Autumn Semester Class Schedule</p> <p>第 1 回 : General introduction 第 2 回 : A model of a non-distorted mode of speech? Plato, <i>The Meno</i> 「メノン」 第 3 回 : Plato continued: <i>The Republic, Book 1</i> 『国家』 第 4 回 : The Post Colonial Situation, Franz Fanon, <i>Black Skin, White Masks</i> (selections) 第 5 回 : Fanon, <i>Black Skin, White Masks</i> continued 第 6 回 : The concept of hegemony, Antonio Gramsci, <i>The Prison Notebooks</i> (selections) 第 7 回 : Gramsci, <i>The Prison Notebooks</i> continued 第 8 回 : Hegemony of language, Macauley, "Minute Upon Indian Education" 第 9 回 : Hegemony of language, continued, C. Douglas Lummis, <i>English Language as Ideology</i>" 第 10 回 : Language and Dictatorship, George Orwell, <i>1984</i> 第 11 回 : Language and Dictatorship, George Orwell, <i>1984</i> 第 12 回 : Saying "no" as a speech act, Václav Havel, "The Power of the Powerless" 第 13 回 : Discussion 第 14 回 : Discussion 第 15 回 : Discussion and conclusion</p>																																																																			
<p>テキスト :</p> <p>参 考 書 : Most of these works are available in Japanese translation (I'm not sure about Macauley and Havel), and of course students may read them in whichever language they refer, as available. Class discussion will be in Japanese, English, or a combination of both, as seems appropriate.</p>																																																																			
<p>学生に対する評価 :</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演 習																																																																			
授業への参加度																																																																			
その他																																																																			

授業科目名	学位取得選択科目	2単位	担当教員																																																																								
Systems and Discourses of Social Inequality			C. Douglas Lummis																																																																								
<p>授業の到達目標及びテーマ —<i>What we've got here is a failure of communication.</i> (Paul Newman as 'Cool Hand Luke')</p> <p>We human beings are remarkable in our ability to communicate, but we are also remarkable in our ability to imagine we are communicating when we are not. Failures of communication can result from a variety of causes: differences of language, culture, ideology, worldview, experience and the like. In this seminar, I want to focus on a factor that is sometimes not noticed in communication studies: differences in power. Power differences can take many forms; here I propose to take up only a sample of some of the most obvious ones.</p>																																																																											
<p>授業の概要</p> <p>The seminar will be divided into two parts. In the Spring semester, we will be looking at a variety of <i>situations</i> in which unequal power distorts communication. As this sort of distortion is a common theme in fiction, we will look at some of the classic works that deal with that theme. In the Fall semester, we will focus more on some of the <i>theoretical works</i> that seek to explain how and why unequal power distorts communication. Of course, students may enrol in either of the two parts of the seminar without enrolling in the other.</p>																																																																											
<p>授 業 計 画 Spring Semester Class Schedule</p> <p>第1回：General introduction 第2回：Communication in class society. James Barrie, <i>The Admirable Crichton</i> 第3回：Communication distorted by gender. James Barrie, <i>The Twelve Pound Look</i> 第4回：Communication distorted by gender, continued. Henrik Ibsen, <i>A Doll's House</i> 第5回：Communication under slavery. Frederick Douglass, <i>Narrative of the Life of Frederick Douglass, an American Slave</i> 第6回：Communication under slavery, continued. Herman Melville, <i>Benito Cereno</i> 第7回：Communication under slavery, continued. Harriet Beecher Stowe, <i>Uncle Tom's Cabin</i> 第8回：Communication under slavery, continued. <i>Uncle Tom's Cabin</i> 第9回：Communication under colonization - theoretical interlude Albert Memmi, <i>The Colonizer and the Colonized</i> 第10回：Communication under colonization, continued <i>The Colonizer and the Colonized</i> 第11回：Colonization continued. Richard Kim, <i>Lost Names</i> 第12回：Colonization continued. Jose Rizal, <i>Noli me Tanjere</i> 第13回：Colonization continued. <i>Noli me Tanjere</i> 第14回：Discussion 第15回：Discussion</p>																																																																											
<p>テキスト：</p>																																																																											
<p>参 考 書：Some of these works have been translated into Japanese (for example Ibsen, Douglass, Stowe, Memmi and Rizal) But some have not - or at least I have not been able to find them. Some are in the College Library (Barrie, Ibsen, Stowe, Rizal) and some are not. Of course, students may read them in their Japanese translation, when available. Seminar discussions will be carried on in Japanese, English, or both, whichever seems convenient. The reading list is flexible, and readings may be added or dropped, depending on time and the direction our conversation takes. Finally, however well or badly this format succeeds as a graduate seminar, it will give us the opportunity to read some very good books.</p>																																																																											
<p>学生に対する評価：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価								試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																																				
成績評価																																																																											
試験 (中間・期末試験)																																																																											
小テスト・ 授業内レポート																																																																											
授業態度																																																																											
受講者の発表																																																																											
演 習																																																																											
授業への参加度																																																																											
その他																																																																											

授業科目名	学位取得選択科目	2単位	担当教員				
地或研究特論 (Okinawan Studies)	専修免 (選択科目)		Anthony P. Jenkins				
授業の到達目標及びテーマ : This course is taught in English with the aim of improving the students' ability to absorb academic information in that language. It also aims to present a great deal of information on a narrow but formative period in recent Okinawan history.							
授業の概要 : The primary focuses of this course are a detailed study of post-war Okinawa and the reading and use of primary sources in interpreting that era. Thereafter, there will be a brief, general survey of some of the remarkable cultural creativity which has defined Ryukyu and Okinawa in a worldwide context. The approach to those themes will include a range of challenges to accepted views and myths which are current in Okinawan society.							
授 業 計 画							
Week 1	Introduction: Okinawan Studies: outline of Okinawan history to WWII						
Week 2	Battle of Okinawa, the US experience and the Okinawan experience documentary source: the Okinawan internment camp at Shimabuku.						
Week 3	Post-war Okinawa, the US occupation and its governmental institutions; documentary source: Ordinance 13 establishing the GRI						
Week 4	Post-war Okinawa, Okinawan and Ryukyuan governmental institutions; documentary sources: various memoranda between the two sides of government						
Week 5	Post-war Okinawa: the land seizures; documentary source: petition from land owners at Bolo and related documents						
Week 6	Post-war Okinawa: crimes and incidents, 1945-72 documentary source: statements on petitions relating to two fatal road accidents						
Week 7	Post-war Okinawa: notable Americans (Deputy Governors and High Commissioners case studies: Eagles, Sheetz and Caraway						
Week 8	Post-war Okinawa: notable Okinawans (<i>chiji</i> and chief executives, Senaga Kamejiro and Inamine Ichiro); documentary sources: Yara Chobyō and the flag-raising campaign.						
Week 9	Post-war Okinawa: aspects of the reversion movement						
Week 10	Post-reversion, the six <i>chiji</i> , their policies and achievements						
Week 11	Education, 1879 to 21 st century documentary sources: scholarship withdrawal from Communist sympathisers						
Week 12	American attitudes to Okinawa documentary source: <i>New York Times</i> and <i>Time</i> article 1952						
Week 13	Brief outlines of Okinawan cultural achievements 1 (lacquer, ceramics, textiles, Ryukyu glass, and the Arts and Crafts movement in Okinawa)						
Week 14	Brief outlines of Okinawan cultural achievements 2 (karate, <i>eisa</i> , dance and <i>kumiodori</i>)						
Week 15	<i>Sekai isari</i> : World Heritage sites in Okinawa						
テキスト : Lecture texts, and documentary sources beyond those outlined above will be distributed at the beginning of the course.							
参考書 : G.H. Kerr, <i>Okinawa: The History of an Island People</i> (Tuttle, 1958) and a list of some 20 other important English-language publications will be distributed in the first class.							
学生に対する評価 : Preparation for class 15%, regular attendance in class 15%, participation in discussion 20%, essay of approved theme 50%							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演習							
授業への参加度							
その他							

授業科目名	学位取得選択科目	2単位	担当教員
社会言語学特論 (Special Studies in Sociolinguistics)	専修免(選択科目)		宮平 勝行
授業の到達目標及びテーマ 本講座では、ことばを社会的行為としてとらえ、異文化コミュニケーションの文脈でことばがどのような機能をはたすのかを考察する。ことばと文化の関係を論じた古典的な論考にまず親しみ、ことばに注目した代表的な異文化コミュニケーション理論を概観した上で、様々な言語コミュニティにおけることばの多様性とその社会・文化的意味と機能について考察する。その上で、異文化コミュニケーションという相互行為の連鎖の組織化を分析し、相互行為を経て産出される意味の共有や異文化性の変容について考える。ことばの多様な役割を理解し、共同体の制度と社会、そして文化と深く結びついているコミュニケーション行為の固有性と普遍性を理解するのが本講座の目標である。			
授業の概要 社会言語学に加えて談話研究、コミュニケーション研究の領域でことばとコミュニケーション行為の固有性を論じた英語の文献を事前に読み、ゼミ形式で質疑応答と批判的読解訓練を重ねる。様々な言語共同体における事例研究を踏まえて、現在国内で見られる異文化コミュニケーションに当てはめてディスカッションを行う。			
授 業 計 画 第 1 回 : 4/10 講義内容紹介、「ことばと文化について」 第 2 回 : 4/17 Whorf: The relation of habitual thought and behavior to language 第 3 回 : 4/24 Smovar, et. al.: Hofstede' s value dimensions and Hall' s high context/low context 第 4 回 : 5/1 Scollon & Scollon: Interpersonal politeness and power 第 5 回 : 5/8 Ide: How and why honorifics can signify dignity and elegance 第 6 回 : 5/15 Goddard & Wierzbicka: Cultural scripts 第 7 回 : 5/22 Blum-Kulka & Olshtain: Requests and apologies 第 8 回 : 5/29 Katriel: The <i>Dugri</i> ritual 第 9 回 : 6/12 Holliday: Small culture 第 10 回 : 6/19 Kasper & Rose: Developmental patterns in second language pragmatics 第 11 回 : 6/26 Mauranen: Signaling and preventing misunderstanding in English as lingua franca communication 第 12 回 : 7/3 Sarangi: Intercultural or not? Beyond celebration of cultural differences in miscommunication analysis 第 13 回 : 7/10 Nishizaka: The interactive constitution of interculturality 第 14 回 : 7/17 Higgins: Constructing membership in the in-group 第 15 回 : 7/24 Clyne, et. al.: Intercultural communication at work in Australia 第 16 回 : 7/31 期末ペーパー提出(午後5時) What is culture? ◆ “Culture refers to a socially constructed and historically transmitted pattern of symbols, meanings, premises, and rules” (Philipsen, 1992). ◆ “Culture is a pattern of symbolic action and meaning that are deeply felt, commonly intelligible, and widely accessible” (Carbaugh, 1988). ◆ “Culture is anything that community members need to know in order to participate in everyday life.” (Gumperz, 1998) ◆ 「文化とはその集団の無意識的な行動パターンに、理想、価値観、思考の体系全部あわせた集合体」			
テキスト: 1 Zhu, Hua. (Ed.). (2011). <i>Than language and intercultural communication reader</i> . London: Routledge. 2 その他、ハンドアウトを利用する。			
学生に対する評価: 読解レポート: 20 points 口頭発表: 20 points 学期末ペーパー: 40 points 授業活動への貢献度: 20 points <u>合計: 100points</u>			
受講規則 1. 授業活動への貢献度は、授業中の発言を通してどれだけクラス全体の知識の向上に貢献したかで主に判断します。 2. リーディング・アサインメントは指定された講義の日までには読み、授業中は発表とクラス・ディスカッションに当てること。授業中に辞書を引くことはしない。 3. 学期中 1/3 以上 (5 回) 授業を欠席した場合は、学則に従い自動的に不可となります。 4. 質問や相談したいことがある場合は、できるだけ下記のオフィス・アワーを利用してください。都合の悪い場合は電話か Eメールでアポイントメントをとることもできます。研究室は琉大内にありますが、みなさんの来学を歓迎します。 オフィスアワー: 火 16:20-17:50 ; 木 12:50-14:20 連絡先: 098-895-8303 電子メール: miyahira@LL.u-ryukyu.ac.jp			

授業科目名	学位取得選択科目	2単位	担当教員																																																																
国際理解教育特論 (Global Issues in Education)	専修免(選択科目)			高橋 日向子																																																															
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>This course is designed to help students learn about other cultures and global issues and how to introduce these cultures and issues to others. Considerable attention will be given to global issues in the teaching of English in Okinawa and Japan.</p>																																																																			
<p>授業の概要</p> <p>Students should note that this class will be conducted primarily in English but can also be given in Japanese. They should also note that the readings will largely be in English and the research paper should be submitted in English. In addition to lectures, readings, and discussions, the class will utilize individual research and presentations to give students practical experience in understanding and helping others understand global issues.</p>																																																																			
<p>授 業 計 画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">第 1 回 : Registration and Course Introduction</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">第 9 回 : Teaching EIL</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第 2 回 : Defining Key Terms</td> <td style="padding: 5px;">第 10 回 : Global Issues and Education</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第 3 回 : Language in Global Society</td> <td style="padding: 5px;">第 11 回 : Global Issues and EIL</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第 4 回 : Language, Culture and Identity</td> <td style="padding: 5px;">第 12 回 : Public Discourse and Social Inequity</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第 5 回 : English as an International Language (EIL)</td> <td style="padding: 5px;">第 13 回 : Teaching Culture in the English Classroom</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第 6 回 : English Education in the World</td> <td style="padding: 5px;">第 14 回 : Education and the Reproduction of Inequality</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第 7 回 : EIL in Japan</td> <td style="padding: 5px;">第 15 回 : Comments on Research Papers</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第 8 回 : EIL in Okinawa</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				第 1 回 : Registration and Course Introduction	第 9 回 : Teaching EIL	第 2 回 : Defining Key Terms	第 10 回 : Global Issues and Education	第 3 回 : Language in Global Society	第 11 回 : Global Issues and EIL	第 4 回 : Language, Culture and Identity	第 12 回 : Public Discourse and Social Inequity	第 5 回 : English as an International Language (EIL)	第 13 回 : Teaching Culture in the English Classroom	第 6 回 : English Education in the World	第 14 回 : Education and the Reproduction of Inequality	第 7 回 : EIL in Japan	第 15 回 : Comments on Research Papers	第 8 回 : EIL in Okinawa																																																	
第 1 回 : Registration and Course Introduction	第 9 回 : Teaching EIL																																																																		
第 2 回 : Defining Key Terms	第 10 回 : Global Issues and Education																																																																		
第 3 回 : Language in Global Society	第 11 回 : Global Issues and EIL																																																																		
第 4 回 : Language, Culture and Identity	第 12 回 : Public Discourse and Social Inequity																																																																		
第 5 回 : English as an International Language (EIL)	第 13 回 : Teaching Culture in the English Classroom																																																																		
第 6 回 : English Education in the World	第 14 回 : Education and the Reproduction of Inequality																																																																		
第 7 回 : EIL in Japan	第 15 回 : Comments on Research Papers																																																																		
第 8 回 : EIL in Okinawa																																																																			
<p>テキスト : Raymond Williams selected readings, Paulo Freire selected readings, James Gee selected readings</p>																																																																			
<p>参 考 書 : 担当者作成の資料を適宜配布</p>																																																																			
<p>評価方法・評価基準 : Attendance, class participation, homework assignments and presentations (50%) course research paper (50%)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: left;">試験 (中間・期末試験)</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">授業態度・ 授業への参加度</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">受講者の発表</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">演 習</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">出 席</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">その他</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度・ 授業への参加度								受講者の発表								演 習								出 席								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度・ 授業への参加度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演 習																																																																			
出 席																																																																			
その他																																																																			
<p>履修上の注意 :</p>																																																																			

授業科目名	学位取得選択科目	2単位	担当教員				
非言語コミュニケーション学特論 (Special Studies in Non-Verbal Communication)			兼 本 円				
授業の到達目標及びテーマ 1. コミュニケーション中に見られる言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの関係を 知ること。 2. 非言語コミュニケーションの仕組みを知ること。 3. 非言語コミュニケーションに関する基礎的フィールドワークに取り組めること。							
授業の概要 日本人同士のコミュニケーション及び異文化間のコミュニケーションに生じる非言語コミュニケーション行動を概観する。さらに、様々な場面でのコミュニケーション映像データを基に、コミュニケーションの破綻、誤解、理解等のプロセスを非言語コミュニケーションの観点から分析して、より良い同一文化内及び異文化間コミュニケーションのモデルを構築する。その際に非言語コミュニケーションの要素として、対人間距離、視線、表情、接触学的要素、対物学要素などを分析の対象とする。							
授 業 計 画							
第1回： コミュニケーション学の紹介	第9回： まとめ（中間）						
第2回： 日常における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの関係	第10回： フィールドワークの説明						
第3回： 理解と誤解について、教科書1章	第11回： フィールドワークの発表、ディスカッション						
第4回： 教科書2章	第12回： フィールドワークの発表、ディスカッション						
第5回： 教科書3章	第13回： フィールドワークの発表、ディスカッション						
第6回： 教科書4章	第14回： まとめ						
第7回： 教科書5章	第15回： フィードバック						
第8回： まとめ（中間）	第16回： 提出物締切期限						
テキスト： 喜多壮太郎 『ジェスチャー、考えるからだ』 金子書房 2,000円							
参 考 書： 1. Martin S. Remland, Nonverbal Communication in Everyday Life, Houghton Mifflin 2. 教員が用いる視聴覚データ							
学生に対する評価： 1. 授業への積極的参加(質疑応答)20% 2. 2回の試験結果60% 3. 課題提出20%							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○		○		○		60
小テスト・ 授業内レポート		○	○		○		20
授業態度	○	○	○	○			10
受講者の発表	○	○	○		○		10
演 習							
授業への参加度	○						
その他							

授業科目名	学位取得選択科目 専修免（選択科目）	2単位	担当教員																																																													
同時通訳・逐次通訳実践 (Practicum in Simultaneous and Consecutive Interpretation)			A. David Ulvog																																																													
授業の到達目標及びテーマ より完成度の高い同時通訳・逐次通訳を目指す。逐次通訳においては、人前に立って通訳が出来るようになる事を目標とする。同時通訳においては、日・英両言語が綺麗に発音できる事、ニュース番組の同時通訳が出来るようになる事を目標とする。																																																																
授業の概要 本講義では、本学で行われる講演と月曜礼拝メッセージなどの通訳の実践に向けての訓練を行う。 逐次通訳の訓練においては、トータル・パフォーマンスを軸に、メモを取り、姿勢、日本語のイントネーションに注目し、より完成度の高い通訳を目指す。同時通訳の訓練においては、日本語→英語の即時変換が出来るよう単語やフレーズのクイック・レスポンスの練習を徹底して行う。また、通訳上、予測能力をつけるためのシャドウイング、背景知識養成として新聞（日本語、英語）を課す。																																																																
授業計画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回： 逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモ取り 第2回： 逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモ取り、通訳 第3回： 逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモとり、通訳、トータル・パフォーマンス（英語、日本語のイントネーション指導） 第4回： 逐次通訳テスト：トータル・パフォーマンス 第5回： 同時通訳訓練、CNN、NHKなどの2カ国語番組テープで日・英両語のシャドウイングモデルについて 第6回： 発音、イントネーションを徹底して訓練する。 第7回： 同時通訳訓練、教材に使用されている単語、句、定型表現等を同時通訳の1技術クイック・レスポンスを用いて英・日両言語への即座の反応を訓練する。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第8回： 同時通訳訓練、クイック・レスポンス。教材と関連するジャーナル(日・英両語)を背景知識の構築練習として丁寧に読み、単語、句、特殊表現、専門用語に慣れ親しむ。 第9回： 第10回： 第11回： 同時通訳テスト：LL教室。レシーバーを通して 第12回： 聞くことばを同時通訳する。 第13回： 第14回： 同時通訳実践：学内で開催される講演、礼拝等の同時通訳。(モニターされる) 第15回： </td> </tr> </table>				第1回： 逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモ取り 第2回： 逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモ取り、通訳 第3回： 逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモとり、通訳、トータル・パフォーマンス（英語、日本語のイントネーション指導） 第4回： 逐次通訳テスト：トータル・パフォーマンス 第5回： 同時通訳訓練、CNN、NHKなどの2カ国語番組テープで日・英両語のシャドウイングモデルについて 第6回： 発音、イントネーションを徹底して訓練する。 第7回： 同時通訳訓練、教材に使用されている単語、句、定型表現等を同時通訳の1技術クイック・レスポンスを用いて英・日両言語への即座の反応を訓練する。	第8回： 同時通訳訓練、クイック・レスポンス。教材と関連するジャーナル(日・英両語)を背景知識の構築練習として丁寧に読み、単語、句、特殊表現、専門用語に慣れ親しむ。 第9回： 第10回： 第11回： 同時通訳テスト：LL教室。レシーバーを通して 第12回： 聞くことばを同時通訳する。 第13回： 第14回： 同時通訳実践：学内で開催される講演、礼拝等の同時通訳。(モニターされる) 第15回：																																																											
第1回： 逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモ取り 第2回： 逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモ取り、通訳 第3回： 逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモとり、通訳、トータル・パフォーマンス（英語、日本語のイントネーション指導） 第4回： 逐次通訳テスト：トータル・パフォーマンス 第5回： 同時通訳訓練、CNN、NHKなどの2カ国語番組テープで日・英両語のシャドウイングモデルについて 第6回： 発音、イントネーションを徹底して訓練する。 第7回： 同時通訳訓練、教材に使用されている単語、句、定型表現等を同時通訳の1技術クイック・レスポンスを用いて英・日両言語への即座の反応を訓練する。	第8回： 同時通訳訓練、クイック・レスポンス。教材と関連するジャーナル(日・英両語)を背景知識の構築練習として丁寧に読み、単語、句、特殊表現、専門用語に慣れ親しむ。 第9回： 第10回： 第11回： 同時通訳テスト：LL教室。レシーバーを通して 第12回： 聞くことばを同時通訳する。 第13回： 第14回： 同時通訳実践：学内で開催される講演、礼拝等の同時通訳。(モニターされる) 第15回：																																																															
テキスト ： CNN、NHK等2カ国語ニュースをトランスクリプトしたもの、VTR、テープ 雑誌：『CNN English』朝日出版（適宜使用） 『通訳翻訳ジャーナル』イカロス出版（適宜使用）																																																																
参考書 ： <i>Becoming a Translator</i> ; Douglas Robinson, Routledge, London and New York 中村保男・谷田貝常夫著 『英和翻訳表現辞典』 研究社 松本 亨著 『これを英語で何というか?』 英友社 小林淳夫著 『通訳の極意』 南雲堂フェニックス その他： 普通の辞典																																																																
学生に対する評価 ： 1) 第4回目： 逐次通訳のテストはトータル・パフォーマンスで評価する。 評価内容： ①メモが取れている ②通訳者のマナーが身についている ③日・英のイントネーション ④訳の正確さ ⑤聴衆へのアピール 2) 第11回目、12回目： レシーバーを通してのテスト。 評価内容： ①日・英シャドウイング（ニュース番組） ②日・英同時通訳（ニュース番組） 第13回目、14回目、15回目： 講演・礼拝等の同時通訳																																																																
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価 試験 (中間・期末試験)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td rowspan="4">総合100%</td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1/3 欠承認</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○		総合100%	小テスト・ 授業内レポート	○	○					授業態度			○	○	○		受講者の発表					○		演習				○	○			授業への参加度							1/3 欠承認	その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																									
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○		総合100%																																																									
小テスト・ 授業内レポート	○	○																																																														
授業態度			○	○	○																																																											
受講者の発表					○																																																											
演習				○	○																																																											
授業への参加度							1/3 欠承認																																																									
その他																																																																

授業科目名	学位取得選択科目 専修免（必修科目）	2単位	担当教員																																																																
Theories & Practices in Western Rhetoric			Daniel Broudy																																																																
授業の到達目標及びテーマ The primary aim of this course is to develop in students a critical awareness of rhetoric in modern discourse, its uses in political, public and private institutions and its connections to power and the methods of persuasion.																																																																			
授業の概要 This course examines theories of rhetoric and how they apply to discourses in various fields of public, academic and political inquiry. This course also examines rhetoric and its relationship to power in society. Coursework includes close readings of texts, speech transcripts, and a documentary film from which will emerge a student presentation.																																																																			
授 業 計 画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回： Introductions & critical discussions of research topics: Assigned readings on "Definition" </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第8回： workshop & critical discussion of student essays: Assigned readings on "Evaluation of evidence" </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第2回： Discussions of readings, White's "Democracy," lecture and PowerPoint presentation on "Definitions": Assigned essay </td> <td style="vertical-align: top;"> 第9回： <i>Discussions of readings, lecture and PowerPoint presentation on "Evidence evaluation": Assigned readings on "Analyzing warrants"</i> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第3回： workshop & critical discussion of student essays: Assigned revisions </td> <td style="vertical-align: top;"> 第10回： <i>Discussions of readings, lecture and PowerPoint presentation on "Warrants": Assigned essay"</i> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第4回： finish workshop: Assigned readings on "Defending a Claim" </td> <td style="vertical-align: top;"> 第11回： <i>Documentary film (Orwell Rolls in His Grave): Assigned questions for critical reflection</i> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第5回： Discussions of readings, "Dr. Dino," lecture and PowerPoint presentation on "Claims": Assigned essay </td> <td style="vertical-align: top;"> 第12回： <i>Discussions</i> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第6回： workshop & critical discussion of student essays: Assigned readings on "Appeals" </td> <td style="vertical-align: top;"> 第13回： workshop & critical discussion of student essays </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第7回： Discussions of readings, lecture and PowerPoint presentation on "Appeals": Assigned essay </td> <td style="vertical-align: top;"> 第14回： workshop & critical discussion of student essays </td> </tr> <tr> <td></td> <td style="vertical-align: top;"> 第15回： Presentations </td> </tr> </tbody> </table>				第1回： Introductions & critical discussions of research topics: Assigned readings on "Definition"	第8回： workshop & critical discussion of student essays: Assigned readings on "Evaluation of evidence"	第2回： Discussions of readings, White's "Democracy," lecture and PowerPoint presentation on "Definitions": Assigned essay	第9回： <i>Discussions of readings, lecture and PowerPoint presentation on "Evidence evaluation": Assigned readings on "Analyzing warrants"</i>	第3回： workshop & critical discussion of student essays: Assigned revisions	第10回： <i>Discussions of readings, lecture and PowerPoint presentation on "Warrants": Assigned essay"</i>	第4回： finish workshop: Assigned readings on "Defending a Claim"	第11回： <i>Documentary film (Orwell Rolls in His Grave): Assigned questions for critical reflection</i>	第5回： Discussions of readings, "Dr. Dino," lecture and PowerPoint presentation on "Claims": Assigned essay	第12回： <i>Discussions</i>	第6回： workshop & critical discussion of student essays: Assigned readings on "Appeals"	第13回： workshop & critical discussion of student essays	第7回： Discussions of readings, lecture and PowerPoint presentation on "Appeals": Assigned essay	第14回： workshop & critical discussion of student essays		第15回： Presentations																																																
第1回： Introductions & critical discussions of research topics: Assigned readings on "Definition"	第8回： workshop & critical discussion of student essays: Assigned readings on "Evaluation of evidence"																																																																		
第2回： Discussions of readings, White's "Democracy," lecture and PowerPoint presentation on "Definitions": Assigned essay	第9回： <i>Discussions of readings, lecture and PowerPoint presentation on "Evidence evaluation": Assigned readings on "Analyzing warrants"</i>																																																																		
第3回： workshop & critical discussion of student essays: Assigned revisions	第10回： <i>Discussions of readings, lecture and PowerPoint presentation on "Warrants": Assigned essay"</i>																																																																		
第4回： finish workshop: Assigned readings on "Defending a Claim"	第11回： <i>Documentary film (Orwell Rolls in His Grave): Assigned questions for critical reflection</i>																																																																		
第5回： Discussions of readings, "Dr. Dino," lecture and PowerPoint presentation on "Claims": Assigned essay	第12回： <i>Discussions</i>																																																																		
第6回： workshop & critical discussion of student essays: Assigned readings on "Appeals"	第13回： workshop & critical discussion of student essays																																																																		
第7回： Discussions of readings, lecture and PowerPoint presentation on "Appeals": Assigned essay	第14回： workshop & critical discussion of student essays																																																																		
	第15回： Presentations																																																																		
テキスト <i>The Structure of Argument.</i> (Annette Rottenberg & Donna Haisty Winchell, 2009) Boston: Bedford St. Martins (ISBN 13: 978-0-312—48048-6) (This text book can also be checked out of the library)																																																																			
参 考 書 ： Website: http://americanrhetoric.com/																																																																			
学生に対する評価 ： Essays40%、Participation20%、Presentation.40%																																																																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演 習																																																																			
授業への参加度																																																																			
その他																																																																			

授業科目名	学位取得選択科目	2 単位	担当教員																																																																
グローバリゼーション特論 Stages of Globalization			C. Douglas Lummis																																																																
<p>授業の到達目標及びテーマ "Globalization" is one of the most recent names for a process that has been continuing at least since 1492. In this seminar we will place less emphasis on its most recent stage than on its earlier history. This is because it is not possible to grasp the nature of what is now called "globalization" without understanding that history. Of course, it will be impossible fully to understand this immensely complex process in a single semester, but we can begin. For convenience I have divided the process into five stages, or phases. Of course, this is far too simple (there are no clear boundaries between the five), but it will at least allow us to put some order into our reading.</p>																																																																			
<p>授業の概要 This course is divided into five major areas. We will have examine theories and practices of globalization as well as early historical concepts and how these ideas relate to and/or reinforce applications in the contemporary social world.</p>																																																																			
<p>授 業 計 画 Autumn Semester Class Schedule</p> <p>第 1 回 : General introduction, Conquest 第 2 回 : Kirkpatrick Sale, <i>Columbus and the Conquest of Paradise</i> 第 3 回 : Bartholome de las Casas, <i>A Short Account of the Destruction of the Indies</i> (selections) The library has his longer work in translation: ラス／カサス『インディアス史』1-5。 第 4 回 : Lummis, 「強制労働としての経済発展」(配布) 第 5 回 : Slavery, Encyclopedia of the Social Sciences 1931, "Forced Labor" (配布) 第 6 回 : Eric Williams, <i>Capitalism and Slavery</i> (The library has his <i>From Columbus to Castro</i> in translation) (selections) 第 7 回 : Colonialism / Empire, as seen by the aristocrat: Macauley's "Minute upon Indian Education" (配布) 第 8 回 : As seen by the liberal: J.S. Mill: "A Note on Intervention" (配布) 第 9 回 : As seen by Karl Marx: "British Rule in India" (配布) 第 10 回 : Development / Neo-Colonialism, as seen by the colonised: Franz Fanon, <i>Black Skin, White Masks</i> ファノン「黒い皮膚、白い仮面」 第 11 回 : C.E. Black, <i>The Dynamics of Modernization Ch. 1</i> (配布) 第 12 回 : C. Douglas Lummis, "American Modernization Theory as Ideology" (配布) 第 13 回 : Globalization / Post-colonialism, Wolfgang Sachs, <i>The Development Dictionary</i>, (selections) (配布) 第 14 回 : Ania Loomba, <i>Colonialism/Postcolonialism</i> 「アーニア・ルーンバ「ポストコロニアル理論入門」(selections) 第 15 回 : Chalmers Johnson, <i>The Sorrows of Empire</i> 「アメリカ帝国の悲劇」(selections)</p>																																																																			
<p>テキスト :</p>																																																																			
<p>参 考 書 : This reading list is flexible. We may add or drop readings depending on how rapidly we proceed and on where the conversation leads.</p>																																																																			
<p>学生に対する評価 :</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演 習																																																																			
授業への参加度																																																																			
その他																																																																			

授業科目名 健康科学特論 (Special Studies in Health Science)	学位取得選択科目	2単位	担当教員 近藤 功行																																																																
授業の到達目標及びテーマ 沖縄の長寿が将来的に危ないとされている。「26 ショック」から現在に至るなかで、沖縄における長寿の問題点は何か。それを探る視点は研究者が必要とする飽くなき探求心から生まれ得るセレンディピティの視点と類似している。つまり、連鎖した事象をほぐし解明していくことによって得る新知見の創出に他ならない。担当者の科学系論文における展開法や方法論を教示しつつ、地元沖縄の調査研究を中心に研究手法を身につけることをベースに、長寿科学研究を中心とした内容を概説して行く。																																																																			
授業の概要 長寿社会を迎えた日本において、長寿県沖縄の抱える問題点、こころの健康、救急医療などの保健・医学的分野と共に、障害児・者にとって必要な就労などの福祉的分野についても教示する。 超長寿者（センテナリアン）、高齢者、寝たきり予防、介護予防、難病といったテーマの現状分析、これまでの担当者の調査研究を通して得た新知見を紹介しつつ、現在に生きる人間に目を向ける研究内容を受講者に伝えることを目指す。																																																																			
授 業 計 画																																																																			
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">第1回：</td> <td>厚生科学研究に携わった担当者の研究内容と現在に至る長寿科学の変化</td> </tr> <tr> <td>第2回：</td> <td>アメリカが抱える病巣を探る：心筋梗塞と肥満がもたらす功罪</td> </tr> <tr> <td>第3回：</td> <td>ファーストフードは、アメリカ社会の縮図と言えるのか</td> </tr> <tr> <td>第4回：</td> <td>患者医師関係のインフォームドコンセントに関わる日米比較研究から—国際日本文化研究センターにおける共同研究から—</td> </tr> <tr> <td>第5回：</td> <td>QOLの解釈の現状—アメリカから導入された学術用語の現在—</td> </tr> <tr> <td>第6回：</td> <td>「26ショック」を考える視点—沖縄の長寿はどうなるのか—</td> </tr> <tr> <td>第7回：</td> <td>ハンセン病医療医学を考える視点—ダミアン神父の功績を中心に— その1</td> </tr> </table>	第1回：	厚生科学研究に携わった担当者の研究内容と現在に至る長寿科学の変化	第2回：	アメリカが抱える病巣を探る：心筋梗塞と肥満がもたらす功罪	第3回：	ファーストフードは、アメリカ社会の縮図と言えるのか	第4回：	患者医師関係のインフォームドコンセントに関わる日米比較研究から—国際日本文化研究センターにおける共同研究から—	第5回：	QOLの解釈の現状—アメリカから導入された学術用語の現在—	第6回：	「26ショック」を考える視点—沖縄の長寿はどうなるのか—	第7回：	ハンセン病医療医学を考える視点—ダミアン神父の功績を中心に— その1	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">第8回：</td> <td>ハンセン病医療医学を考える視点—ダミアン神父の功績を中心に— その2</td> </tr> <tr> <td>第9回：</td> <td>終末期医療を考究する視点—欧米・北欧・オーストラリアの緩和ケアの現状から—①</td> </tr> <tr> <td>第10回：</td> <td>終末期医療を考究する視点—欧米・北欧・オーストラリアの緩和ケアの現状から—②</td> </tr> <tr> <td>第11回：</td> <td>寝たきり予防は自己管理で可能</td> </tr> <tr> <td>第12回：</td> <td>在宅死亡8割の島（自治体）の現状と本内容に関する最新版研究の紹介（その1）</td> </tr> <tr> <td>第13回：</td> <td>在宅死亡8割の島（自治体）の現状と本内容に関する最新版研究の紹介（その2）</td> </tr> <tr> <td>第14回：</td> <td>難病研究の現状</td> </tr> <tr> <td>第15回：</td> <td>まとめ—超長寿社会を見据える視点—</td> </tr> </table>	第8回：	ハンセン病医療医学を考える視点—ダミアン神父の功績を中心に— その2	第9回：	終末期医療を考究する視点—欧米・北欧・オーストラリアの緩和ケアの現状から—①	第10回：	終末期医療を考究する視点—欧米・北欧・オーストラリアの緩和ケアの現状から—②	第11回：	寝たきり予防は自己管理で可能	第12回：	在宅死亡8割の島（自治体）の現状と本内容に関する最新版研究の紹介（その1）	第13回：	在宅死亡8割の島（自治体）の現状と本内容に関する最新版研究の紹介（その2）	第14回：	難病研究の現状	第15回：	まとめ—超長寿社会を見据える視点—																																				
第1回：	厚生科学研究に携わった担当者の研究内容と現在に至る長寿科学の変化																																																																		
第2回：	アメリカが抱える病巣を探る：心筋梗塞と肥満がもたらす功罪																																																																		
第3回：	ファーストフードは、アメリカ社会の縮図と言えるのか																																																																		
第4回：	患者医師関係のインフォームドコンセントに関わる日米比較研究から—国際日本文化研究センターにおける共同研究から—																																																																		
第5回：	QOLの解釈の現状—アメリカから導入された学術用語の現在—																																																																		
第6回：	「26ショック」を考える視点—沖縄の長寿はどうなるのか—																																																																		
第7回：	ハンセン病医療医学を考える視点—ダミアン神父の功績を中心に— その1																																																																		
第8回：	ハンセン病医療医学を考える視点—ダミアン神父の功績を中心に— その2																																																																		
第9回：	終末期医療を考究する視点—欧米・北欧・オーストラリアの緩和ケアの現状から—①																																																																		
第10回：	終末期医療を考究する視点—欧米・北欧・オーストラリアの緩和ケアの現状から—②																																																																		
第11回：	寝たきり予防は自己管理で可能																																																																		
第12回：	在宅死亡8割の島（自治体）の現状と本内容に関する最新版研究の紹介（その1）																																																																		
第13回：	在宅死亡8割の島（自治体）の現状と本内容に関する最新版研究の紹介（その2）																																																																		
第14回：	難病研究の現状																																																																		
第15回：	まとめ—超長寿社会を見据える視点—																																																																		
テキスト：必要な内容を毎時間プリント作成してきます。担当者が執筆中の書籍、論文の内容を随時紹介していくことで、最新版の研究に触れ教示をおこないます。																																																																			
参 考 書 近藤功行（共著）：難病（X連鎖遺伝病・筋萎縮性側索硬化症・クロイツフェルトヤコブ病後縦帯骨化症・再生不良性貧血・ジストニア・シャイドレガー症候群・重症筋無力症・神経難病・進行性筋ジストロフィー・スモン・脊髄小脳変性症・突発性大腿骨壊死症・難病・パーキンソン病・バッドキアリ症候群・ハンセン病・ハンチントン病・ビュフガー病・ベーチェット病・ライソゾーム病）、難病特定疾患一覧、介護保険特定疾病病一覧、福祉医療用語辞典(宮原伸二編著、創元社、pp.178 - pp.186、2006) 近藤功行(共著)：漢方、フーチーバー、鍼灸、民俗医療、薬草、薬用動物、ヤブー、沖縄民俗辞典、渡邊欣雄ほか編著、吉川弘文館、2008(印刷中)																																																																			
学生に対する評価：履修人数が1名の場合も考えられるため、担当者の最新の研究を紹介することを中心に進めます。現在執筆中の校正原稿を提示するなどこういった研究紹介を教示することで、受講者はこれに対しての感想や意見を記述してもらいます。毎時間提示する教材に対する感想記述や関連した質問に回答してもらいつつ、最終的な本講義課題としてこれまでの講義内容の視点をまとめて記述してもらうことなどから総合評価を出したいと考えます。																																																																			
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)	○	○		○			90	小テスト・ 授業内レポート							評価に加えず	授業態度							評価に加えず	受講者の発表							評価に加えず	演習							評価に加えず	授業への参加度			○				10	その他							なし
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
試験 (中間・期末試験)	○	○		○			90																																																												
小テスト・ 授業内レポート							評価に加えず																																																												
授業態度							評価に加えず																																																												
受講者の発表							評価に加えず																																																												
演習							評価に加えず																																																												
授業への参加度			○				10																																																												
その他							なし																																																												

授業科目名	学位取得選択科目	2単位	担当教員																																																																
死生学特論 (Special Studies in Thanatology)			近藤 功 行																																																																
授業の到達目標及びテーマ 本講義は、社会事象の中で刻々と変化する生と死の内容に触れ、死生観を中心とした当該地域の人々が持つ伝統的な考え方が学校教育を担う立場の側にとっても重要な内容であることを理解してもらおう。とりわけ、学校教育の中で『死生学』を学ぶ取り組みの重要性について触れ、同時に大学と社会人の間でも同様な取り組みが必要なことを概説し、将来展望を受講者と共に学んでゆく。																																																																			
授業の概要 生と死を学ぶ取り組みが小学校から大学までの教育、あるいは社会人対象とした中で取り込まれてきている。生と死を学問的な見地から見つめながら、個々の研究の柱において生かして行く視点を教示する。自文化、異文化を通して見た死生観、遺体観、生命観、世界観などになどに関する担当者の調査研究から、ヒトの命をめぐるテーマを射程に入れ、考究を試みる。自宅死亡、終末期医療、終(つひ)などのテーマも考究する。																																																																			
授 業 計 画																																																																			
第1回： アメリカ葬儀事情—ミネソタ州立大学葬儀学部ほか— 第2回： アメリカ流葬送形態の特徴—エンバーミングの日本への移入 第3回： 欧米の葬送形態と日本の葬送業者が受けた影響—形成外科医のしごと 第4回： 欧米・オーストラリアの緩和ケア医療の現状と日本の現状について 第5回： 樹木葬、空中葬、宇宙葬、音楽葬、生前葬などを通してみる日本人の死生観の変化 第6回： 学校教育で『死生学』を学ぶ視点を考える—小学校教育において— 第7回： 学校教育で『死生学』を学ぶ視点を考える—中学校教育において—	第8回： 学校教育で『死生学』を学ぶ視点を考える—高等学校教育において— 第9回： 学校教育で『死生学』を学ぶ視点を考える—高等学校以上の教育において— 第10回： 学校教育で『死生学』を学ぶ視点を考える—社会人教育において— 第11回： 諸外国における『死生学』の教育を考究する視点 第12回： 生と死を学ぶこと 第13回： 日本人の死生観とインドネシア・バリ島の死生観 第14回： 墓地を通してみる死生観の変遷 第15回： 『死生学』を学ぶことの意義とは																																																																		
テキスト：担当者が必要な講義資料を毎時間プリントしてきます。																																																																			
参 考 書： 近藤功行：『学生教育・社会教育における『死生学（サナトロジー）』の担う役割について—その将来展望と基礎・学際的研究の読みから—、平成8年度川崎医療福祉大学プロジェクト研究費研究成果報告書、全388、1997 産経新聞大阪社会部：『死』の教科書～なぜ人を殺してはダメなのか～、扶桑社新書020、2007（近藤功行：取材協力）																																																																			
学生に対する評価： 担当者は学部教育においてマスプロ教育を避ける上で、毎時間B4用紙1枚に感想を書いてもらい提出している。真ん中で折った左側に担当者が問いかけるいくつかの質問事項と、右側に講義の感想および「ここで一言」の欄を用いて、何某かの記述をしてもらっている。大学院教育においても、僅少数での講義となると考えられるが、このような感想用紙を作成し、毎時間提出をしてもらいたいと考えている。欠席時の感想は配布した講義資料を読んだ感想でかまわない。このように毎時間「事実（講義内容及び配付資料）+意見・感想」を書く作業を通すことと、試験にかわる課題として論述する内容を出し、総合した評価を出して行く。																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>小テスト・授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>評価に加えず</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)	○	○		○			90	小テスト・授業内レポート							評価に加えず	授業態度							評価に加えず	受講者の発表							評価に加えず	演習							評価に加えず	授業への参加度			○				10	その他							なし			
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
試験 (中間・期末試験)	○	○		○			90																																																												
小テスト・授業内レポート							評価に加えず																																																												
授業態度							評価に加えず																																																												
受講者の発表							評価に加えず																																																												
演習							評価に加えず																																																												
授業への参加度			○				10																																																												
その他							なし																																																												

授業科目名	学位取得選択科目	2単位	担当教員																																																																
キリスト教学特論 (Special Studies in Christianity)			神山 繁 實																																																																
授業の到達目標及びテーマ 聖書の思想についての理解を深める。 世界人口の三分の二（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教）が聖書に基づく文化・価値観を形成している。聖書が世界に及ぼした文化や文明が及ぼした影響は大きい。その根幹をなす聖書の思想をテキストにそってゼミ形式で、テキストを楽しみながら味わい、学ぶ。																																																																			
授業の概要 England became the people of a book, and that book was the Bible. とは、19世紀の英国の歴史家グリーン（J. R. Green）の名著 A Short History of the English People （『英国史略』1874, 改訂版1883）第8章に述べられている（テキスト,p.XX）。英語聖書は、欧米文化の精神的支柱に生活の中に深く浸透している。クラスでは、寺園芳雄のテキストに従って、最も古典的な英語聖書を学生の発表とコメントを加えながら読み進む。 下記のテキストは、King James Bible (KJB)あるいは、Authorized Version (AV) から引用した名著から引用して執筆された名著である。																																																																			
授 業 計 画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">第1回： 講義の概要と進め方等の説明 NT 1～3</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">第9回： NT 40～43</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第2回： NT 4～9</td> <td style="padding: 5px;">第10回： NT 44～47</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第3回： NT 10～12</td> <td style="padding: 5px;">第11回： NT 48～52</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第4回： NT 13～17</td> <td style="padding: 5px;">第12回： NT 53～59</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第5回： NT 18～22</td> <td style="padding: 5px;">第13回： NT 60～62</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第6回： NT 23～27</td> <td style="padding: 5px;">第14回： NT 63～69</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第7回： NT 28～33</td> <td style="padding: 5px;">第15回： NT 70～75</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第8回： NT 34～39</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				第1回： 講義の概要と進め方等の説明 NT 1～3	第9回： NT 40～43	第2回： NT 4～9	第10回： NT 44～47	第3回： NT 10～12	第11回： NT 48～52	第4回： NT 13～17	第12回： NT 53～59	第5回： NT 18～22	第13回： NT 60～62	第6回： NT 23～27	第14回： NT 63～69	第7回： NT 28～33	第15回： NT 70～75	第8回： NT 34～39																																																	
第1回： 講義の概要と進め方等の説明 NT 1～3	第9回： NT 40～43																																																																		
第2回： NT 4～9	第10回： NT 44～47																																																																		
第3回： NT 10～12	第11回： NT 48～52																																																																		
第4回： NT 13～17	第12回： NT 53～59																																																																		
第5回： NT 18～22	第13回： NT 60～62																																																																		
第6回： NT 23～27	第14回： NT 63～69																																																																		
第7回： NT 28～33	第15回： NT 70～75																																																																		
第8回： NT 34～39																																																																			
テキスト： 寺澤芳雄編著『名句で読む英語聖書—聖書と英語文化』研究者、2010、¥4000+税																																																																			
参 考 書： 各種聖書																																																																			
学生に対する評価： 各自、担当テキストについて発表する。 出欠、発表、ディカッション、ペーパー等で判断する。																																																																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: left;">試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演 習																																																																			
授業への参加度																																																																			
その他																																																																			

授業科目名	学位取得選択科目 専修免(必修科目)	2単位	担当教員				
英米文学特論 (Special Studies in British and American Literature)			Christopher Melley				
授業の到達目標及びテーマ Students aim to develop a critical perspective on American and British culture by engaging in readings and discussions of selected creative literary works well known throughout the past 500 years.							
授業の概要 This is a survey course in literature that focuses on British and American culture through well-known works in fiction, poetry, and drama. Critical discussions of these works are taken up by both the teacher and the students with the purpose of developing skills in critical reflection and writing.							
授 業 計 画							
第1回 : English Literature: The Wanderer, The Battle of Maldon, Excerpt from Beowulf	第8回 : Romantic Poets, William Wordsworth, The World is Too Much, Lyrical Ballads, Preface, Samuel Taylor Coleridge, Kubla Khan, John Keats, Ode to Autumn						
第2回 : Popular Ballads of the Later Middle Ages: The Cherry-tree Carol, The Wee Wise Man, The Unquiet Grave, The Birth of Robin Hood	第9回 : American Literature, John Winthrop, A Model of Christian Charity						
第3回 : Hamlet, Selected sonnets	第10回 : Ralph Waldo Emerson, Self-Reliance, Henry David Thoreau						
第4回 : Ben Johnson, Meditation XVII, Elegy 19: To His Mistress Going to Bed, Song: To Celia, Robert Herrick, To the Virgins, To Make Much of Time, Upon Julia's Clothes, Andrew Marvell, To His Coy Mistress	第11回 : Walt Whitman, Leaves of Grass, excerpts						
第5回 : John Milton, Sonnet XVII, Samson Agonistes, lines 1-109, Paradise Lost, lines 1-120	第12回 : Mark Twain, Huckleberry Finn, excerpts, Letters from the Earth, excerpts						
第6回 : Jonathan Swift, A Modest Proposal, excerpts, Alexander Pope, An Essay on Criticism, lines 1-87, Thomas Gray, Elegy Written in a Country Churchyard	第13回 : African-American writers, Slave narratives, excerpts, Paul Lawrence Dunbar						
第7回 : Oliver Goldsmith, The Deserted Village, lines 1-430, Robert Burns, To a Mouse	第14回 : Langston Hughes, e.e. Cummings, William Stafford						
	第15回 : Arthur Miller, Death of a Salesman, Final						
テキスト : Readings provided by professor							
参 考 書 :							
学生に対する評価 : PRESENTATION (10%), WRITING PROJECT 1 ・ ANALYSIS OF TWO POEMS (10%), WRITING PROJECT 2 ・ ANALYSIS OF A SHORT STORY (10%), WRITING PROJECT 3 ・ ANALYSIS OF DRAMA (10%), 4 QUIZZES (5% each; 20%), FINAL EXAM (30%), PARTICIPATION (10%)							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

授業科目名	学位取得選必科目 (異文化交流領域) 専修免(選必科目)	4単位	担当教員																																																																
異文化コミュニケーション学特別演習Ⅰ (Inter-Cultural Communication Thesis I)			伊 佐 雅 子																																																																
授業の到達目標及びテーマ 異文化コミュニケーションに関連したテーマの修士論文を作成するための基礎的研究手法を学びます。海外留学、海外赴任、帰国後再適応、在日外国人が直面する問題、国内(日本&沖縄)での摩擦、国際交流・協力、メディア・スポーツ交流、グローバル化と英語の普及の問題、日米の言語・非言語コミュニケーションの比較などが、テーマとなる。また、沖縄の文化とコミュニケーションのテーマも扱う。																																																																			
授業の概要 異文化コミュニケーションに関連したテーマの修士論文を作成するために必要なテーマの設定と研究方法について検討し、助言を行う。具体的には、受講生自身が提起したテーマについて、その意義を検討し、これまでの研究のレビュー、理論的検証、及び妥当な研究方法などを共に研究する。																																																																			
授 業 計 画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回： 研究テーマの設定 －テーマの決め方・絞り方－ 第2回： 論文作成の基礎 ー文献検索、論文形式、APAスタイルー 第3回： テーマ案に沿った先行研究調査 第4回： テーマ案に沿った先行研究調査 第5回： 研究方法の模索 第6回： 研究方法の模索 第7回： 研究方法の模索 第8回： 研究テーマ案の提出 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第9回： 中間報告 第10回： 研究計画書の提出 第11回： 章立て案の作成 第12回： 文献リストの作成 第13回： 個別指導 第14回： 個別指導 第15回： 個別指導 </td> </tr> </tbody> </table>				第1回： 研究テーマの設定 －テーマの決め方・絞り方－ 第2回： 論文作成の基礎 ー文献検索、論文形式、APAスタイルー 第3回： テーマ案に沿った先行研究調査 第4回： テーマ案に沿った先行研究調査 第5回： 研究方法の模索 第6回： 研究方法の模索 第7回： 研究方法の模索 第8回： 研究テーマ案の提出	第9回： 中間報告 第10回： 研究計画書の提出 第11回： 章立て案の作成 第12回： 文献リストの作成 第13回： 個別指導 第14回： 個別指導 第15回： 個別指導																																																														
第1回： 研究テーマの設定 －テーマの決め方・絞り方－ 第2回： 論文作成の基礎 ー文献検索、論文形式、APAスタイルー 第3回： テーマ案に沿った先行研究調査 第4回： テーマ案に沿った先行研究調査 第5回： 研究方法の模索 第6回： 研究方法の模索 第7回： 研究方法の模索 第8回： 研究テーマ案の提出	第9回： 中間報告 第10回： 研究計画書の提出 第11回： 章立て案の作成 第12回： 文献リストの作成 第13回： 個別指導 第14回： 個別指導 第15回： 個別指導																																																																		
テキスト：石井敏・久米昭元 『異文化コミュニケーション研究法—テーマの着想から論文の書き方まで—』有斐閣 1900円 波平恵美子・道信良子 『質的研究：Step by Step—すぐれた論文作成をめざして—』医学書院 2400円																																																																			
参 考 書： 住原則也 『異文化の学びかた・描きかた』世界思想社 1800円																																																																			
学生に対する評価： 参加度 (30%)、研究計画書 (30%) および中間報告 (40%)																																																																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演 習																																																																			
授業への参加度																																																																			
その他																																																																			

授業科目名	学位取得選必修科目 (異文化交流領域) 専修免(選必修科目)	4単位	担当教員																																																																
異文化コミュニケーション学特別演習Ⅱ (Inter-Cultural Communication Thesis II)			伊 佐 雅 子																																																																
授業の到達目標及びテーマ 前期に引き続き、修士論文作成に資することをめざす。海外留学、海外赴任、帰国後再適応、在日外国人が直面する問題、国内(日本&沖縄)での摩擦、国際交流・協力、メディア・スポーツ交流、グローバル化と英語の普及の問題、日米の言語・非言語コミュニケーションの比較などが、テーマとなる。また、沖縄の文化とコミュニケーションのテーマも扱う。																																																																			
授業の概要 前期での研鑽を踏まえ、各自が進めている異文化コミュニケーション関連の研究について、進捗状況を数回にわたり報告してもらい、軌道修正および内容の精緻化を図る。																																																																			
授 業 計 画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">第1回： 序論提出</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">第8回： 論文の第1稿提出</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第2回： 調査、分析、フィールドワーク等の報告</td> <td style="padding: 5px;">第9回： "</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第3回： "</td> <td style="padding: 5px;">第10回： 論文第2稿提出</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第4回： "</td> <td style="padding: 5px;">第11回： "</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第5回： "</td> <td style="padding: 5px;">第12回： 論文第3稿提出</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第6回： 各章の中間報告</td> <td style="padding: 5px;">第13回： 最終報告</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第7回： 参考文献リストの提出</td> <td style="padding: 5px;">第14回： 要旨の提出</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding: 5px;">第15回： 修士論文完成</td> </tr> </tbody> </table>				第1回： 序論提出	第8回： 論文の第1稿提出	第2回： 調査、分析、フィールドワーク等の報告	第9回： "	第3回： "	第10回： 論文第2稿提出	第4回： "	第11回： "	第5回： "	第12回： 論文第3稿提出	第6回： 各章の中間報告	第13回： 最終報告	第7回： 参考文献リストの提出	第14回： 要旨の提出		第15回： 修士論文完成																																																
第1回： 序論提出	第8回： 論文の第1稿提出																																																																		
第2回： 調査、分析、フィールドワーク等の報告	第9回： "																																																																		
第3回： "	第10回： 論文第2稿提出																																																																		
第4回： "	第11回： "																																																																		
第5回： "	第12回： 論文第3稿提出																																																																		
第6回： 各章の中間報告	第13回： 最終報告																																																																		
第7回： 参考文献リストの提出	第14回： 要旨の提出																																																																		
	第15回： 修士論文完成																																																																		
テキスト： 石井敏・久米昭元『異文化コミュニケーション研究法—テーマの着想から論文の書き方まで—』有斐閣 1900円 波平恵美子・道信良子『質的研究：Step by Step—すぐれた論文作成をめざして—』医学書院 2400円																																																																			
参 考 書： 住原則也『異文化の学びかた・描きかた』世界思想社 1800円																																																																			
学生に対する評価： 参加度(20%)、中間報告(30%)、最終報告(50%)																																																																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演 習																																																																			
授業への参加度																																																																			
その他																																																																			

授業科目名	学位取得選必科目	4単位	担当教員																																																																
異文化コミュニケーション学特別演習 I (Inter-Cultural Communication Thesis I)	(異文化交流領域) 専修免(選必科目)			近藤 功 行																																																															
授業の到達目標及びテーマ <p>沖縄と他の地域の内容を概観することは、2つの文化を見ることにつながる。自文化においても、これまで暮らしていない地域に入ることに関しては異文化研究の視点をはらむことになる。そこから得る新知見が研究上重要な意味をもつ。これから研究に入る人達にこの新知見を得る方法を導き出すには多角的・重層的な視点や調査研究が必要であることを述べ、沖縄に関連した研究事例を概説する。</p>																																																																			
授業の概要 <p>沖縄の人々がこれまで長寿でいられた背景には、人・環境・気候・社会文化的背景、等の連鎖があると考えられる。今日、自殺、長寿、健康等の要因については様々な要因が連鎖しており、この中身を紐解く必要がある。そのため、こういった沖縄の人と心・コミュニケーション研究のテーマ設定の方法や既存の論文を通して概観し、同時に、先行研究や研究手法を教示する。また、論文構想や論文の柱をつくるための教示を行う。(以下、授業計画に示した一部タイトル中の年齢は2007年12月現在のものである)</p>																																																																			
授 業 計 画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>第1回:</td><td>100歳高齢者の氏名はなぜ公表されなくなったのか</td></tr> <tr><td>第2回:</td><td>波照間島出身の高齢女性(97歳)の生活する場はどこか</td></tr> <tr><td>第3回:</td><td>与論島出身の高齢者夫婦(85歳・84歳)は何故島で死ねなくなったのか</td></tr> <tr><td>第4回:</td><td>「女性の開きは4歳、男性の開きは2歳(全国)の意味する内容とは</td></tr> <tr><td>第5回:</td><td>長寿の質としてのPPK(ピ・ピ・コ)戦略(長野県)は果たして成功したのか</td></tr> <tr><td>第6回:</td><td>沖縄県の長寿の質は過去10年間で下落したのか</td></tr> <tr><td>第7回:</td><td>沖縄県の特別養護老人ホームの充足率が全国1になった年の背景はなにか</td></tr> </table> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>第8回:</td><td>沖縄の伝統食、行事食はまだ守られるのか</td></tr> <tr><td>第9回:</td><td>沖縄への移住はまだ続くのかー「リトル東京」八重山の投げかける問題点とはー</td></tr> <tr><td>第10回:</td><td>沖縄のユタ・カミンチュ・サンジンソウは今後どうなるのか</td></tr> <tr><td>第11回:</td><td>「姥捨て山」伝説の長野県は男性平均寿命が1位ー長野に学べることは何かー</td></tr> <tr><td>第12回:</td><td>沖縄の妖怪伝説の投げかけるものはなにか</td></tr> <tr><td>第13回:</td><td>沖縄の精神科医療の現状はどうなっているのか</td></tr> <tr><td>第14回:</td><td>沖縄の産婦人科医療の現状はどうなっているのか</td></tr> <tr><td>第15回:</td><td>これまでの講義を振り返って(まとめ)</td></tr> </table> </td> </tr> </tbody> </table>				<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>第1回:</td><td>100歳高齢者の氏名はなぜ公表されなくなったのか</td></tr> <tr><td>第2回:</td><td>波照間島出身の高齢女性(97歳)の生活する場はどこか</td></tr> <tr><td>第3回:</td><td>与論島出身の高齢者夫婦(85歳・84歳)は何故島で死ねなくなったのか</td></tr> <tr><td>第4回:</td><td>「女性の開きは4歳、男性の開きは2歳(全国)の意味する内容とは</td></tr> <tr><td>第5回:</td><td>長寿の質としてのPPK(ピ・ピ・コ)戦略(長野県)は果たして成功したのか</td></tr> <tr><td>第6回:</td><td>沖縄県の長寿の質は過去10年間で下落したのか</td></tr> <tr><td>第7回:</td><td>沖縄県の特別養護老人ホームの充足率が全国1になった年の背景はなにか</td></tr> </table>	第1回:	100歳高齢者の氏名はなぜ公表されなくなったのか	第2回:	波照間島出身の高齢女性(97歳)の生活する場はどこか	第3回:	与論島出身の高齢者夫婦(85歳・84歳)は何故島で死ねなくなったのか	第4回:	「女性の開きは4歳、男性の開きは2歳(全国)の意味する内容とは	第5回:	長寿の質としてのPPK(ピ・ピ・コ)戦略(長野県)は果たして成功したのか	第6回:	沖縄県の長寿の質は過去10年間で下落したのか	第7回:	沖縄県の特別養護老人ホームの充足率が全国1になった年の背景はなにか	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>第8回:</td><td>沖縄の伝統食、行事食はまだ守られるのか</td></tr> <tr><td>第9回:</td><td>沖縄への移住はまだ続くのかー「リトル東京」八重山の投げかける問題点とはー</td></tr> <tr><td>第10回:</td><td>沖縄のユタ・カミンチュ・サンジンソウは今後どうなるのか</td></tr> <tr><td>第11回:</td><td>「姥捨て山」伝説の長野県は男性平均寿命が1位ー長野に学べることは何かー</td></tr> <tr><td>第12回:</td><td>沖縄の妖怪伝説の投げかけるものはなにか</td></tr> <tr><td>第13回:</td><td>沖縄の精神科医療の現状はどうなっているのか</td></tr> <tr><td>第14回:</td><td>沖縄の産婦人科医療の現状はどうなっているのか</td></tr> <tr><td>第15回:</td><td>これまでの講義を振り返って(まとめ)</td></tr> </table>	第8回:	沖縄の伝統食、行事食はまだ守られるのか	第9回:	沖縄への移住はまだ続くのかー「リトル東京」八重山の投げかける問題点とはー	第10回:	沖縄のユタ・カミンチュ・サンジンソウは今後どうなるのか	第11回:	「姥捨て山」伝説の長野県は男性平均寿命が1位ー長野に学べることは何かー	第12回:	沖縄の妖怪伝説の投げかけるものはなにか	第13回:	沖縄の精神科医療の現状はどうなっているのか	第14回:	沖縄の産婦人科医療の現状はどうなっているのか	第15回:	これまでの講義を振り返って(まとめ)																																
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>第1回:</td><td>100歳高齢者の氏名はなぜ公表されなくなったのか</td></tr> <tr><td>第2回:</td><td>波照間島出身の高齢女性(97歳)の生活する場はどこか</td></tr> <tr><td>第3回:</td><td>与論島出身の高齢者夫婦(85歳・84歳)は何故島で死ねなくなったのか</td></tr> <tr><td>第4回:</td><td>「女性の開きは4歳、男性の開きは2歳(全国)の意味する内容とは</td></tr> <tr><td>第5回:</td><td>長寿の質としてのPPK(ピ・ピ・コ)戦略(長野県)は果たして成功したのか</td></tr> <tr><td>第6回:</td><td>沖縄県の長寿の質は過去10年間で下落したのか</td></tr> <tr><td>第7回:</td><td>沖縄県の特別養護老人ホームの充足率が全国1になった年の背景はなにか</td></tr> </table>	第1回:	100歳高齢者の氏名はなぜ公表されなくなったのか	第2回:	波照間島出身の高齢女性(97歳)の生活する場はどこか	第3回:	与論島出身の高齢者夫婦(85歳・84歳)は何故島で死ねなくなったのか	第4回:	「女性の開きは4歳、男性の開きは2歳(全国)の意味する内容とは	第5回:	長寿の質としてのPPK(ピ・ピ・コ)戦略(長野県)は果たして成功したのか	第6回:	沖縄県の長寿の質は過去10年間で下落したのか	第7回:	沖縄県の特別養護老人ホームの充足率が全国1になった年の背景はなにか	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>第8回:</td><td>沖縄の伝統食、行事食はまだ守られるのか</td></tr> <tr><td>第9回:</td><td>沖縄への移住はまだ続くのかー「リトル東京」八重山の投げかける問題点とはー</td></tr> <tr><td>第10回:</td><td>沖縄のユタ・カミンチュ・サンジンソウは今後どうなるのか</td></tr> <tr><td>第11回:</td><td>「姥捨て山」伝説の長野県は男性平均寿命が1位ー長野に学べることは何かー</td></tr> <tr><td>第12回:</td><td>沖縄の妖怪伝説の投げかけるものはなにか</td></tr> <tr><td>第13回:</td><td>沖縄の精神科医療の現状はどうなっているのか</td></tr> <tr><td>第14回:</td><td>沖縄の産婦人科医療の現状はどうなっているのか</td></tr> <tr><td>第15回:</td><td>これまでの講義を振り返って(まとめ)</td></tr> </table>	第8回:	沖縄の伝統食、行事食はまだ守られるのか	第9回:	沖縄への移住はまだ続くのかー「リトル東京」八重山の投げかける問題点とはー	第10回:	沖縄のユタ・カミンチュ・サンジンソウは今後どうなるのか	第11回:	「姥捨て山」伝説の長野県は男性平均寿命が1位ー長野に学べることは何かー	第12回:	沖縄の妖怪伝説の投げかけるものはなにか	第13回:	沖縄の精神科医療の現状はどうなっているのか	第14回:	沖縄の産婦人科医療の現状はどうなっているのか	第15回:	これまでの講義を振り返って(まとめ)																																				
第1回:	100歳高齢者の氏名はなぜ公表されなくなったのか																																																																		
第2回:	波照間島出身の高齢女性(97歳)の生活する場はどこか																																																																		
第3回:	与論島出身の高齢者夫婦(85歳・84歳)は何故島で死ねなくなったのか																																																																		
第4回:	「女性の開きは4歳、男性の開きは2歳(全国)の意味する内容とは																																																																		
第5回:	長寿の質としてのPPK(ピ・ピ・コ)戦略(長野県)は果たして成功したのか																																																																		
第6回:	沖縄県の長寿の質は過去10年間で下落したのか																																																																		
第7回:	沖縄県の特別養護老人ホームの充足率が全国1になった年の背景はなにか																																																																		
第8回:	沖縄の伝統食、行事食はまだ守られるのか																																																																		
第9回:	沖縄への移住はまだ続くのかー「リトル東京」八重山の投げかける問題点とはー																																																																		
第10回:	沖縄のユタ・カミンチュ・サンジンソウは今後どうなるのか																																																																		
第11回:	「姥捨て山」伝説の長野県は男性平均寿命が1位ー長野に学べることは何かー																																																																		
第12回:	沖縄の妖怪伝説の投げかけるものはなにか																																																																		
第13回:	沖縄の精神科医療の現状はどうなっているのか																																																																		
第14回:	沖縄の産婦人科医療の現状はどうなっているのか																																																																		
第15回:	これまでの講義を振り返って(まとめ)																																																																		
テキスト: 必要な講義資料を毎時間プリントしてきます。																																																																			
参 考 書: 近藤功行(共著): ライフロング・ソシオロジー、山本慶裕・元田州彦(編)、東海大学出版会、1991																																																																			
学生に対する評価: 毎時間講義に関する感想用紙を作成してきます。これに毎回記述してください。欠席した場合も、この感想用紙を提出してください。左側には講義を欠席しても書けるいくつかの質問があります。講義の感想は書けなくても配布資料の感想を書いてください。なお、講義終了時期には試験にかわる課題を出します。これらの記述や試験にかわる課題の状況を総合的に評価して評価します。																																																																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価 試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演習								授業への参加度								その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
成績評価 試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演習																																																																			
授業への参加度																																																																			
その他																																																																			

授業科目名	学位取得選必科 (異文化交流領域) 専修免(選必科目)	4単位	担当教員				
異文化コミュニケーション学特別演習Ⅱ (Inter-Cultural Communication Thesis II)			近藤 功 行				
授業の到達目標及びテーマ 講義のはじめ5回では、日本や諸外国の生態系(生命科学)を通しての視点から異文化コミュニケーションを考究する。次の5回では、健康科学からの視点で異文化コミュニケーションを考究する。次に、医療福祉学からの視点での考究を通して概説することで、研究を行う上での柱の築き方を導き出しつつ研究手法の教示につなげる。							
授業の概要 各自が研究しようとしている、環境文化系、環境コミュニケーション分野、医療とコミュニケーション、死生観などに関する諸テーマについて検討・助言を行い、修士論文を執筆するための学習支援を行う。後期は個別指導が必要な時期であり、執筆者がオリジナルなテーマ設定のもとに全体構成がなされているか、各章立てが結論に有機的にむすびついているか、といったことを念頭におき、論文完成を導くことを全面支援する。							
授 業 計 画							
第1回： 人間と生態系からみる視点—人種・宗教・言語・アイデンティティ—	第8回： 沖縄に勤務する薬剤師にみる視点—医療とコミュニケーション—	第9回： 異文化間看護の研究を通してみる視点	第10回： 肥満大国アメリカと健康、日本および諸外国の自殺を通してみる視点				
第2回： 環境、ヒト、進化、自然からの視点	第11回： 虐待・ホームレス・生活苦・貧困・姥捨て山伝説を通してみる視点	第12回： 世界の死亡原因：先進国と低開発国での違いを中心に	第13回： 緩和ケア医療の方向性を考える視点—岡山モデルは日本型ホスピスの先駆的存在か—				
第3回： 地球温暖化問題がもたらす影響—ガラパゴス諸島・小笠原諸島ほかの生態系影響—	第14回： 精神障害者の雇用を考える視点	第15回： これまでの講義を振り返って(まとめ)					
第4回： 人間と自然環境からみる視点							
第5回： ヒトはどのような進化を遂げようとしているのか							
第6回： 音楽療法・イルカセラピー・癒し・ホテルとチャペルを通してみる視点							
第7回： 医師と患者間関係にみる視点							
テキスト：必要な講義資料を毎時間プリントしてきます。							
参 考 書：近藤功行(共著)：介護福祉学習辞典(第2版)、中央法規出版、2007							
学生に対する評価： 毎時間講義に関する感想用紙を作成してきます。これに毎回記述してください。欠席した場合も、この感想用紙を提出してください。左側には講義を欠席しても書けるいくつかの質問があります。講義の感想は書けなくても配布資料の感想を書いてください。なお、講義終了時期には試験にかわる課題を出します。これらの記述や試験にかわる課題の状況を総合的に評価して評価します。							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演習							
授業への参加度							
その他							

授業科目名	学位取得選必科 (英語教育領域) 専修免(選必科目)	4 単位	担当教員																																																																
英語教育学特別演習 I (English Education Thesis I)			Daniel Broudy																																																																
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>In serving students who have entered the initial stages of thesis research, this course aims to present systematic approaches to thesis planning, research, and design.</p>																																																																			
<p>授業の概要</p> <p>This course is a second-year core seminar that introduces research students to the systematic exploration of a chosen topic. Discussions include generating and organizing ideas, finalizing a researchable topic, reviewing literature, formulating research questions, claims, proposals, predictions, theses and hypotheses, exploring ethical implications of human research, thinking critically, and sourcing research materials.</p>																																																																			
<p>授 業 計 画</p> <p>第 1 回 : drawing boundaries around subjects and topics 第 2 回 : generating 第 3 回 : selecting, organizing and outlining 第 4 回 : hypothesizing 第 5 回 : testing hypotheses 第 6 回 : formulating research questions 第 7 回 : gathering data - applied approaches to questionnaires 第 8 回 : gathering data - applied approaches to interviews 第 9 回 : ethics in human research 第 10 回 : logical fallacies 第 11 回 : introducing reviewed literature 第 12 回 : quoting, paraphrasing in APA 第 13 回 : student-led discussions 第 14 回 : presenting results of raw field work 第 15 回 : summing up</p>																																																																			
<p>テキスト : Readings in this course are supplied by the teacher.</p>																																																																			
<p>参 考 書 :</p>																																																																			
<p>学生に対する評価 :</p> <p>Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価 試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
成績評価 試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演 習																																																																			
授業への参加度																																																																			
その他																																																																			

授業科目名	学位取得選必科目 (英語教育領域) 専修免(選必科目)	4 単位	担当教員				
英語教育学特別演習Ⅱ (English Education Thesis II)			Daniel Broudy				
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>In serving students who have reached the final stages of graduate studies, this course aims to present systematic approaches to thesis production and publication.</p>							
<p>授業の概要</p> <p>This course second-year core seminar that continues discussions of preliminary research methods, deductive and inductive approaches, definitions of key concepts and words, theoretical frameworks, questionnaires, observations, and interviews. Students receive credit for participating in, leading discussions, submitting a completed thesis outline, and presenting the results of the course literature review at the end of the semester.</p>							
<p>授 業 計 画</p> <p>第 1 回 : critical discussions of field work synthesizing and organizing data</p> <p>第 2 回 : critical discussions of field work synthesizing and organizing data</p> <p>第 3 回 : definitions: key concepts and words</p> <p>第 4 回 : deductive approaches</p> <p>第 5 回 : inductive approaches</p> <p>第 6 回 : syllogistic reasoning</p> <p>第 7 回 : expanding the syllogism in the Toulmin tradition</p> <p>第 8 回 : strategies in drafting</p> <p>第 9 回 : strategies in editing</p> <p>第 10 回 : strategies in revision</p> <p>第 11 回 : reflecting on conclusions and theorizing about future possibilities</p> <p>第 12 回 : student-led discussions</p> <p>第 13 回 : student-led discussions</p> <p>第 14 回 : preparations for oral defense</p> <p>第 15 回 : summing up</p>							
<p>テキスト : Readings in this course are supplied by the teacher.</p>							
<p>参 考 書 :</p>							
<p>学生に対する評価 :</p> <p>Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester.</p>							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

授業科目名	学位取得選必科目 (英語教育領域) 専修免(選必科目)	4 単位	担当教員				
英語教育学特別演習 I (English Education Thesis I)							
授業の到達目標及びテーマ テーマの絞り方、先行研究調査、方法論構築の仕方、資料収集の方法などを検討し、論文の書き方について学ぶ。							
授業の概要 各自が研究しようとする、最新のコミュニケーション重視の英語教育理論に関するテーマの設定と研究方法について検討・助言を行ない、修士論文執筆を行なうための学習支援を行なう。							
授 業 計 画							
第1回： イントロダクション		第9回： 研究計画案の提出					
第2回： 論文テーマの策定		第10回： 章立て案の作成					
第3回： テーマに沿った先行研究調査		第11回： 文献リストの作成					
第4回： //		第12回： 個別指導					
第5回： 研究方法の模索		第13回： //					
第6回： //		第14回： //					
第7回： 研究テーマ案の提出		第15回： //					
第8回： 中間報告							
テキスト： ウィリアム・リトルウッド原著、 池浦貞彦監修『コミュニケーション重視の言語教育』 開隆堂							
参 考 書： 鈴木恭史著『コミュニケーションの力をつける英語教育』 開隆堂 Friederike Klippel, <i>Keep Talking</i> , Cambridge University Press Ho Wah Kam & Ruth YL Wong(eds.), <i>English Language Teaching in East Asia Today</i> , Eastern Universities Press, Singapore 斉藤美津子『話し言葉の科学』 サイマル出版会 斉藤美津子『聞き方の理論』 サイマル出版会							
学生に対する評価： 参加度 (30%)、研究計画案 (30%) および中間報告 (40%)							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

授業科目名	学位取得選必科目 (英語教育領域) 専修免(選必科目)	4 単位	担当教員																																																																
英語教育学特別演習Ⅱ (English Education Thesis II)																																																																			
授業の到達目標及びテーマ 各自が研究しようとする、英語教授法、通訳、翻訳分野に関するテーマについて検討・助言を行い、修士論文執筆を行うための学習支援を行い、学生は論文全体の構成など、論文作成の具体的な方法を学ぶ。																																																																			
授業の概要 主として英語教授法、通訳、翻訳の分野での修士論文について完成をめざし、個別指導を行なう。																																																																			
授 業 計 画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%;">第1回： 序論提出</td> <td style="width: 50%;">第9回： 個別指導</td> </tr> <tr> <td>第2回： 調査、分析などの報告</td> <td>第10回： 論文の仮提出</td> </tr> <tr> <td>第3回： //</td> <td>第11回： 個別指導</td> </tr> <tr> <td>第4回： 各章の中間報告</td> <td>第12回： //</td> </tr> <tr> <td>第5回： //</td> <td>第13回： 最終報告</td> </tr> <tr> <td>第6回： 参考文献リストの提出</td> <td>第14回： //</td> </tr> <tr> <td>第7回： 個別指導</td> <td>第15回： 要旨提出 & 論文完成</td> </tr> <tr> <td>第8回： 個別指導</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				第1回： 序論提出	第9回： 個別指導	第2回： 調査、分析などの報告	第10回： 論文の仮提出	第3回： //	第11回： 個別指導	第4回： 各章の中間報告	第12回： //	第5回： //	第13回： 最終報告	第6回： 参考文献リストの提出	第14回： //	第7回： 個別指導	第15回： 要旨提出 & 論文完成	第8回： 個別指導																																																	
第1回： 序論提出	第9回： 個別指導																																																																		
第2回： 調査、分析などの報告	第10回： 論文の仮提出																																																																		
第3回： //	第11回： 個別指導																																																																		
第4回： 各章の中間報告	第12回： //																																																																		
第5回： //	第13回： 最終報告																																																																		
第6回： 参考文献リストの提出	第14回： //																																																																		
第7回： 個別指導	第15回： 要旨提出 & 論文完成																																																																		
第8回： 個別指導																																																																			
テキスト： 高島英幸編著『英語のタスク活動とタスク』大修館書店 小林敦夫著『通訳の極意』 南雲堂フェニックス Douglas Robinson, <i>Becoming a Translator</i> , Routledge, London and New York																																																																			
参 考 書： David Nunan, <i>Language Teaching Methodology</i> , Prentice Hall Elaine Tarone and Geroge Yule, <i>Focus on the Language Learner</i> , Oxford University Press 柴田バネッサ『はじめてのウイスパリング同時通訳』 南雲堂 教育科学研究会編『なぜフィンランドの子ども達は学力が高いか』 国土社 Thomas M. Holtgraves, <i>Language as Social Action</i> , Lawrence Erlbaum Associates 向鎌治郎・丸山祥夫著『中学校英語で通訳ができる』 ジャパン タイムズ																																																																			
学生に対する評価： 参加度 (20%)、中間報告 (30%)、最終報告 (50%)																																																																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演 習																																																																			
授業への参加度																																																																			
その他																																																																			

授業科目名	学位取得選必科目 (英語教育領域) 専修免(選必科目)	4 単位	担当教員				
英語教育学特別演習 I (English Education Thesis I)							
授業の到達目標及びテーマ 一作家の作品を読むことで、その作品に見られる作家の歴史や文化に対する基本的な考え方を抽出し、歴史・文化について考察する。つまり、ノンフィクションを題材と扱い、ある地域におけるある特定の時代の状況と、そこに生きる人々の人間模様について考察する。							
授業の概要 英語教育のバックグラウンドとして英米文学の作家・作品研究を行なう。英米の歴史・文学・思想などについての理解を一人の作家を採り上げて考察する。本演習ではテーマ設定の方法や、最新の研究動向を踏まえつつ、受講学生の論文構想や論文の柱を作るための指導・助言を行なう。20世紀前半のアメリカのノンフィクション、特にジョン・スタインベックのノンフィクションを取り上げ、テーマ設定の仕方や研究方法をモデルとして教示する。							
授 業 計 画							
第 1 回： 英米文学と英語教育について		第 9 回： 批評文講読 (1)；					
第 2 回： 英語教育における多読の重要性について		第 10 回： 批評文講読 (2)；Thesis Statement 提出					
第 3 回： 外国文学として読むアメリカ文学の面白さと有用性について		第 11 回： 批評文講読 (3)；Outline 提出					
第 4 回： 作品講読 (1)：John Steinbeck's <i>Travels with Charley</i> を読む。		第 12 回： ペーパーの要旨口頭発表					
第 5 回： 作品講読 (2)；資料収集の方法について		第 13 回： ペーパーについての質疑応答；修士論文の論題とテーマ設定について					
第 6 回： 作品講読 (3)；Thesis Statement の書き方について		第 14 回： 修士論文のテーマ設定に関する質疑応答；修士論文の参考文献リスト提出					
第 7 回： 作品講読 (4)；Outline の書き方について		第 15 回： ペーパー提出；修士論文の論題、テーマ設定、参考文献リスト提出					
第 8 回： 作品講読 (5)；ペーパーのトピック提出							
テキスト： John Steinbeck' <i>Travels with Charley: In search of America</i> (Penguin Books)							
参 考 書： 参考文献と配布資料あり。							
学生に対する評価： 授業への参加 30%、提出物の評価 40%、レポートの評価 30% 成績評価は、修士論文提出後に前・後期のものを一括して与える。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

授業科目名	学位取得選必科目 (英語教育領域) 専修免(選必科目)	4 単位	担当教員																																																																
英語教育学特別演習Ⅱ (English Education Thesis II)																																																																			
授業の到達目標及びテーマ 英米文学研究と英語教育の関連性を念頭におきながら、作家研究をする。論題・テーマ設定・参考文献リストを整備し、論文を書き上げる。																																																																			
授業の概要 論文のテーマ設定や研究方法を学んだ上で、英語教育に資する英米文学研究という視点から独自のテーマ設定を行い、新しい視点を採り入れて研究に深みと幅を持たせる工夫をする。環境と文学の関係を迫るネイチャーライティングの視点もその一つである。本演習では、作家・作品研究にネイチャーライティングや英語教育などの視点を取り入れながら最終的には作家研究に焦点を絞ることを教示していきたい。																																																																			
授 業 計 画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">第1回： 論題について</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">第9回： 口頭発表会</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第2回： Thesis Statement について</td> <td style="padding: 5px;">第10回： 第一草稿提出</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第3回： 参考文献リストについて</td> <td style="padding: 5px;">第11回： 第一草稿についての話し合い</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第4回： Note-taking のカードの活用について</td> <td style="padding: 5px;">第12回： 参考文献リストの整備について</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第5回： Outline について</td> <td style="padding: 5px;">第13回： 注の付け方について</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第6回： 第一草稿の進捗状況について個別インタビュー</td> <td style="padding: 5px;">第14回： 様式に従った最終稿の提出について</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第7回： //</td> <td style="padding: 5px;">第15回： 修士論文に関する最終審査</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">第8回： 第一草稿の進捗状況について個別インタビュー</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				第1回： 論題について	第9回： 口頭発表会	第2回： Thesis Statement について	第10回： 第一草稿提出	第3回： 参考文献リストについて	第11回： 第一草稿についての話し合い	第4回： Note-taking のカードの活用について	第12回： 参考文献リストの整備について	第5回： Outline について	第13回： 注の付け方について	第6回： 第一草稿の進捗状況について個別インタビュー	第14回： 様式に従った最終稿の提出について	第7回： //	第15回： 修士論文に関する最終審査	第8回： 第一草稿の進捗状況について個別インタビュー																																																	
第1回： 論題について	第9回： 口頭発表会																																																																		
第2回： Thesis Statement について	第10回： 第一草稿提出																																																																		
第3回： 参考文献リストについて	第11回： 第一草稿についての話し合い																																																																		
第4回： Note-taking のカードの活用について	第12回： 参考文献リストの整備について																																																																		
第5回： Outline について	第13回： 注の付け方について																																																																		
第6回： 第一草稿の進捗状況について個別インタビュー	第14回： 様式に従った最終稿の提出について																																																																		
第7回： //	第15回： 修士論文に関する最終審査																																																																		
第8回： 第一草稿の進捗状況について個別インタビュー																																																																			
テキスト： ジョゼフ・ジバルディー著『MLA英語論文の手引き』第6版（北星堂、2007）																																																																			
参 考 書： 参考文献と配布資料あり。																																																																			
学生に対する評価： 内容：30%、文章力：30%、形式：20%、口頭試問：20%																																																																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: left;">試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																												
試験 (中間・期末試験)																																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																																			
授業態度																																																																			
受講者の発表																																																																			
演 習																																																																			
授業への参加度																																																																			
その他																																																																			